

津山工業高等専門学校	総合理工学科(電気電子システム系)	開講年度	平成29年度 (2017年度)
------------	-------------------	------	-----------------

学科到達目標

教育理念 (自律・創造・共生)

確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成する。

学習・教育目標

科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成

1. 教養豊かな実践的人間力の養成
2. 確かな基礎科学の知識修得
3. 基盤となる専門性の深化
4. 分野横断的な融合力の育成
5. グローバルな視点と社会性の養成
6. 課題探求・解決能力の育成
7. コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
一般	必修	国語 I	履修単位	3	3	3																		杉山明 同免木利加 (一般)		
一般	必修	倫理	履修単位	2	2	2																		稲田知己 田中雄祐 (一般)		
一般	必修	世界史	履修単位	2	2	2																		角谷英則		
一般	必修	基礎数学	履修単位	4	4	4																		吉田英治 神田徳明 (一般) 横谷正明		
一般	必修	基礎数学演習	履修単位	2	2	2																		小林敏前 澤孝信 野村健作 寺元貴幸		
一般	必修	物理 I	履修単位	2	2	2																		佐藤誠 中村重之 井上浩行 寺元貴幸		
一般	必修	生物 I	履修単位	2	2	2																		柴田典人 澤孝信		
一般	必修	音楽	履修単位	1	1	1																		長尾千枝 (一般)		
一般	必修	英語 I	履修単位	3	3	3																		山口裕美 山口均		
一般	必修	英語表現 I	履修単位	2	2	2																		高橋雅幸		
一般	必修	保健・体育 I	履修単位	3	3	3																		内倉康一 荒木祥一		
専門	必修	総合理工入門	履修単位	1	2																			松田修加 藤学 嶋賢男 寺元貴幸		

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語 I
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	教科書:『精選国語総合新訂版』(大修館書店),『熟語を音訓から学ぶ一品詞別一頻出漢字マスター3000』(尚文出版),参考書:指定はしないが,国語辞典,漢和辞典,古語辞典も必要。				
担当教員	杉山 明,同免木利加 (一般)				
到達目標					
学習目的:古典,現代文を問わず,よい文章に接して自分自身の日本語力を向上させるとともに,古典を読むことによって伝統的な日本文化を理解する。					
到達目標 1. 基礎的な文語文法を理解し,簡単な日本古典を読解する。 2. 基礎的な漢文訓読法を理解し,初歩的な中国古典を読解する。 3. 現代日本語による文章を読解し,自己の日本語表現能力を高める。 ◎効果的な説明方法や手段を用いて,コミュニケーションを図ることができる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	様々な現代の文章を読んでその内容を理解し,それに対する自分の考えを持つことが出来る。	様々な現代の文章を読んでその内容を理解することが出来る。	様々な現代の文章を読んでその内容を概ね理解することが出来る。	様々な現代の文章を読んでもその内容を理解できず,またしようとしない。	
評価項目2	辞書やテキストを用い,自発的に日本語に対する知識や語彙を増やすことが出来る。	辞書やテキストを用い,自発的に日本語に対する知識や語彙を増やす為の努力が出来る。	辞書やテキストを用い,自発的に日本語に対する知識や語彙を増やす為の努力が出来る。	辞書やテキストを用いて日本語に対する知識や語彙を増やすことができず,また増やそうとしない。	
評価項目3	古文・漢文を読みその内容を味わうと共にその価値を理解することが出来る。	古文・漢文を読みその内容を理解し味わうことが出来る。	古文・漢文を読みその概ねの内容を理解することが出来る。	古文・漢文を読み,その内容を理解することができず,またしようとしない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別:一般 学習の分野:国語</p> <p>必修・必履修・履修選択・選択の別:必履修</p> <p>基礎となる学問分野:人文学/文学・言語学</p> <p>学科学習目標との関連:本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」「⑤グローバルな視点と社会性の養成」及び「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連:本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F)コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の育成」であるが,付随的には日本文化の理解の深化が「(B)地球的視野に立った人間性の育成」にも関与する。</p> <p>授業の概要:高等学校検定教科書を利用して,簡単な日本古典,初歩的な中国古典,現代日本文学を読み進める。適宜,課題図書,課題作文も与える。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法:1週3単位時間のうち,1時間を杉山が担当し漢文分野を,2時間を同免木が担当し現代文分野,古文分野を講義する。漢字小テストも毎週1回行う。</p> <p>成績評価方法: ・成績は定期試験80%+漢字小テスト10%+課題提出物10%の合計から評価する。 ・定期試験は計4回実施し,その評価割合は同等である。各定期試験での配点は現代文・古文・漢文を1/3ずつとする。また,再試験は原則として実施しない。 ・漢字小テストは平素の授業時に行い(週1回),その平均点を成績に算入する。再テストは原則として行わない。欠課等で小テストが受験出来なかった場合,公認欠課を除いて,当該小テストが0点となる。 ・課題提出物は長期休暇中や単元終了時に課す。詳細はその都度指示する。</p>				
注意点	<p>履修上の注意:本科目は1学年の課程修了のために履修(欠課時間数が所定授業時間数の3分の1以下)が必須の科目である。</p> <p>履修のアドバイス:平素の授業を大切にすることは当然だが,その他に積極的に読書をする事,文章を書くことを勧めたい。事前に教材を読んでおくこと。また漢字小テストの準備は必ずしておく。</p> <p>基礎科目:小,中学校における国語 関連科目:国語Ⅱ(2年),国語Ⅲ(3年),国語Ⅳ(4年),異文化社会論(4年),日本文化論(4年)</p> <p>受講上のアドバイス: ・授業開始時刻が遅れた場合,20分までは遅刻,それ以降は欠課として扱う。 ・積極的に授業に参加することはもちろんだが,日頃から新聞,読書等,日常の言語生活の充実を図ることが,言語能力の向上に大きな影響をもたらすことを理解してほしい。 ・分からない語句を調べる習慣と繰り返し音読する習慣を身につけよう。 ・授業中に辞書を引く場合,携帯電話の辞書機能を使用することは認められない。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	随筆・評論(現文),旧仮名遣い・説話(古文),訓読法・故事成語(漢文)		
		3週	随筆・評論(現文),旧仮名遣い・説話(古文),訓読法・故事成語(漢文)		

		4週	随筆・評論（現文），旧仮名遣い・説話（古文），訓読法・故事成語（漢文）		
		5週	随筆・評論（現文），旧仮名遣い・説話（古文），訓読法・故事成語（漢文）		
		6週	随筆・評論（現文），旧仮名遣い・説話（古文），訓読法・故事成語（漢文）		
		7週	随筆・評論（現文），旧仮名遣い・説話（古文），訓読法・故事成語（漢文）		
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解説		
		10週	小説（現代文），説話（古文），故事成語・漢詩（漢文）		
		11週	小説（現代文），説話（古文），故事成語・漢詩（漢文）		
		12週	小説（現代文），随筆・説話（古文），故事成語・漢詩（漢文）		
		13週	小説（現代文），随筆・説話（古文），故事成語・漢詩（漢文）		
		14週	小説（現代文），随筆・説話（古文），故事成語・漢詩（漢文）		
		15週	前期末試験		
		16週	前期末試験の返却と解説		
	後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス	
			2週	評論（現代文），随筆・物語（古文），漢詩・史伝（漢文）	
			3週	評論（現代文），随筆・物語（古文），漢詩・史伝（漢文）	
4週			評論（現代文），随筆・物語（古文），漢詩・史伝（漢文）		
5週			評論（現代文），随筆・物語（古文），漢詩・史伝（漢文）		
6週			評論（現代文），随筆・物語（古文），漢詩・史伝（漢文）		
7週			評論（現代文），随筆・物語（古文），漢詩・史伝（漢文）		
8週			後期中間試験		
4thQ		9週	後期中間試験の返却と解説		
		10週	小説（現代文），物語（古文），文章・思想（漢文）		
		11週	小説（現代文），物語（古文），文章・思想（漢文）		
		12週	小説（現代文），物語（古文），文章・思想（漢文）		
		13週	小説（現代文），物語（古文），文章・思想（漢文）		
		14週	小説（現代文），物語（古文），文章・思想（漢文）		
		15週	学年末試験		
		16週	学年末試験の返却と開設		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	80	0	0	0	10	10	100
基礎的能力	80	0	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	倫理
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『現代の倫理』 (山川出版社)				
担当教員	稲田 知己, 田中雄祐 (一般)				
到達目標					
<p>1. 諸思想や諸宗教において、人としていかに生きるべきと考えられてきたか、理解できる。</p> <p>2. 環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。</p> <p>◎人間性、教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	諸思想や諸宗教において、人がいかに生きるべきと考えられたか、詳細かつ発展的に理解できる。	諸思想や諸宗教において、人がいかに生きるべきと考えられたか、重要事項を詳細かつ基本的に理解できる。	諸思想や諸宗教で、人がいかに生きるべきと考えられたか、基本的に理解できない。		
評価項目2	環境問題、エネルギー問題といった地球的諸課題について詳細かつ発展的に理解できる。	環境問題、エネルギー問題といった地球的諸課題について重要事項を詳細かつ基本的に理解できる。	環境問題、エネルギー問題といった地球的諸課題について基本的に理解できない。		
評価項目3	人間性、教養など、社会的・地球的観点から物事を詳細かつ発展的に考えることができる。	人間性、教養など、社会的・地球的観点から物事を詳細かつ基本的に考えることができる。	人間性、教養など、社会的・地球的観点から物事を基本的に考えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本科目では、生命倫理や環境倫理といった、現代社会がはらむさまざまな倫理問題を具体的に検討する。また、さまざまな文化圏の哲学・倫理・宗教について歴史的に概観し、倫理について考えるための基礎教養を学習する。				
授業の進め方・方法	年4回の試験100% (その内訳は、25%×4)。それぞれの試験で、上記の達成目標の達成度を判定できる課題を課す。定期試験では教科書・ノートの持ち込みを許可しない。原則として、再試験は実施しない。				
注意点	本科目は環境教育関連科目である。本科目は、現代社会の倫理問題を具体的に検討することによって、一般科目教員が技術者倫理を体系的に概説する「工業倫理学」(5)、専門教員が教育するさらに実践的な「工学倫理」(専1)の基礎科目として役立つ。遅刻については、授業に大幅に遅れてやってきた学生は欠課とするが、何回かの遅刻を1欠課とするという措置はとらない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	●ガイダンス		
		2週	●第I部「青年期と自己の課題」		
		3週	●第I部第1章「青年期と自己の探求」		
		4週	●第I部第1章「青年期と自己の探求」		
		5週	●第I部第1章「青年期と自己の探求」		
		6週	●第I部第2章「自己と他者」		
		7週	●第I部第2章「自己と他者」		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	●第II部「人間としてのあり方・生き方」		
		10週	●第II部第1章「人間としての自覚」		
		11週	●第II部第1章「人間としての自覚」		
		12週	●第II部第1章「人間としての自覚」		
		13週	●第II部第1章「人間としての自覚」		
		14週	●第II部第1章「人間としての自覚」		
		15週	(前期末試験)		
		16週	●前期末試験の返却と解答解説		
後期	3rdQ	1週	●第III部「現代社会と倫理」		
		2週	●第III部第1章「現代社会を生きる倫理」		
		3週	●第III部第1章「現代社会を生きる倫理」		
		4週	●第III部第1章「現代社会を生きる倫理」		
		5週	●第III部第1章「現代社会を生きる倫理」		
		6週	●第III部第1章「現代社会を生きる倫理」		
		7週	●第III部第1章「現代社会を生きる倫理」		
		8週	(後期中間試験)		
	4thQ	9週	●第III部「現代社会と倫理」		
		10週	●第III部第2章「現代の課題と倫理」		
		11週	●第III部第2章「現代の課題と倫理」		
		12週	●第III部第2章「現代の課題と倫理」		
		13週	●第III部第2章「現代の課題と倫理」		

	14週	●第Ⅲ部第2章「現代の課題と倫理」	
	15週	(後期末試験)	
	16週	●後期末試験の返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	世界史
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	世界史B, 実教出版 最新世界史図説タバストリー, 帝国書院				
担当教員	角谷 英則				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・人文・社会的科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う意識をもつこと。 ・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う意識をもつこと。 ・日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できる必要性を理解すること。 					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		十分に授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	10回をこえて欠席すること	
評価項目2		指示に十分に合ったレポートを提出すること	指示にある程度合ったレポートを提出すること	指示に合ったレポートを提出しないこと	
評価項目3		なし	なし	なし	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本列島をのぞく世界の歴史を中心に、日本列島との関係にも言及しながら概観する。膨大な学習対象の量に比して時間数は限られているため、時間・空間ともに適宜抽出した内容を扱うことになるが、本講義は比較史的視角をつねに意識しながらすすめられる。				
授業の進め方・方法	通史的解説によって授業を進めるが、日本列島をのぞく諸地域の歴史という生活上の実感をもちにくい学習内容の性質上、映像資料をできるだけ用いる。年に数回、小課題への取り組みを求める。また、講義内容は受講者の状況などを参照しつつ柔軟に設定する。				
注意点	受動的態度による受講では学習に喜びを見いだすことは困難である。積極的に学習する意欲をもってはじめて学習成果は教養となることを銘記されたい。遅刻（開始時間におくれること）については受講者の自覚を求め、特段のペナルティはあたえない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	●歴史学とはなにか（1）		
		3週	●歴史学とはなにか（2）		
		4週	●歴史学とはなにか（3）		
		5週	●歴史学とはなにか（4）		
		6週	●人類史の最初期段階		
		7週	●（前期中間試験）		
		8週	●オリエント世界と地中海世界の形成		
	2ndQ	9週	●南アジア世界の形成		
		10週	●東南アジア世界の形成		
		11週	●中央ユーラシア世界の形成と展開		
		12週	●東アジア世界の変動と再編		
		13週	●イスラーム世界の形成と拡大		
		14週	●ヨーロッパ世界の形成（前期末試験）		
		15週	●ユーラシア大帝国の出現		
		16週			
後期	3rdQ	1週	●世界をめぐる銀		
		2週	●アジア諸地域の栄華と成熟		
		3週	●琉球・アイヌからみた世界史		
		4週	●大規模な分業体制の成立		
		5週	●西ヨーロッパの覇権争いと世界的な分業体制の拡大		
		6週	●環大西洋革命／工業文明と国民国家の誕生		
		7週	●近代諸革命の意味		
		8週	●（後期中間試験）		
	4thQ	9週	●イギリスの覇権と欧米の国民国家建設		
		10週	●世界の一体化の進展とアジアの変容		
		11週	●世界の一体化の完成とその影響		
		12週	●世界大戦の時代		
		13週	●東西冷戦から多極的国際社会へ		
		14週	●相互依存を深める世界（後期末試験）		
		15週	●アメリカの覇権と盛衰		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	課題	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎数学
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 新井一道 著 新基礎数学 (大日本図書)				
担当教員	吉田 英治, 神田徳明 (一般), 横谷 正明				
到達目標					
学習目的: 中学校までに習った数学の内容を受けて, これを更に発展させ, 今後習う数学や専門科目に必要な基礎知識を習得することを目的とする。					
到達目標 1. 2次方程式, 2次関数の基本事項を理解する。 2. 指数・対数関数, 三角関数などの初等的な関数を理解し, 基本的な計算ができる。 3. 平面図形(直線や2次曲線)の方程式が理解できる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	2次方程式, 2次関数に関する応用問題を解くことができる。	2次方程式, 2次関数の標準的な問題を理解し, 計算ができる。	2次方程式, 2次関数の基本事項を理解し, 基本的な問題の計算ができる。	2次方程式, 2次関数の標準的な問題の計算ができない。	
評価項目2	指数・対数関数, 三角関数などに関する応用問題を解くことができる。	指数・対数関数, 三角関数などの標準的な関数を理解し, 計算ができる。	指数・対数関数, 三角関数などの基本的な関数を理解し, 基本的な計算ができる。	指数・対数関数, 三角関数などの初等的な関数を理解し, 基本的な計算ができない。	
評価項目3	直線や2次曲線などの平面図形の方程式を理解した上で, 応用問題も解くことができる。	直線や2次曲線などの平面図形の方程式が理解でき, 標準的な問題を解くことができる。	直線や2次曲線などの平面図形の方程式が理解でき, 基本的な問題を解くことができる。	直線や2次曲線などの平面図形の方程式が理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般 学習の分野: 自然科学系基礎・共通 必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修 基礎となる学問分野: 数物系科学/数学/数学基礎</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は学習目標「② 確かな基礎科学の知識修得」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化」である。</p> <p>授業の概要: この科目は, 2年生以降で習う数学はもちろん専門科目等を学ぶ上で基礎となるもので, 2次方程式や2次不等式の解法, 2次関数, 指数・対数関数, 三角関数などの初等的な関数の基本的な性質, グラフと方程式・不等式との関係, また数列の考え方を学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 学生の理解を確認しながら, 授業を進める。</p> <p>成績評価方法: 4回の定期試験(同等に評価し50%)とレポート(50%)の合計で評価する。詳細はルーブリックを参照すること。成績等によっては, 再試験を行う(レポート課題を課す)こともある。再試験は80点を上限として本試験と同様に評価する。試験には教科書・ノート等の持ち込みを許可しない。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 学年の課程修了のためには, 本科目の履修が必要である。</p> <p>履修のアドバイス: 必ず予習・復習を行うこと。特に予習を中心とする学習を勧める。理解を深めるために, 教科書の問題はもとより問題集の問題も数多く解いてほしい。</p> <p>基礎科目: 中学校までに習った数学 関連科目: 基礎数学演習(1年), 微分積分I(全系2年), 基礎線形代数(全系2年)</p> <p>必ず予習・復習を行うこと。特に予習を中心とする学習を勧める。分からないことは講義中に質問する, あるいは放課後に担当教員, 友人あるいは先輩に聞くなどし, 分からないまま放置しないこと。遅刻の回数が多い場合は, 警告を行った後, 欠席扱いとすることもある。</p> <p>受講上のアドバイス: 必ず予習・復習を行うこと。特に予習を中心とする学習を勧める。分からないことは講義中に質問する, あるいは放課後に担当教員, 友人あるいは先輩に聞くなどし, 分からないまま放置しないこと。遅刻の回数が多い場合は, 警告を行った後, 欠席扱いとすることもある。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	方程式1(教科書p34-p70)		
		3週	方程式2(集合・命題を除く)		
		4週	2次関数1(教科書p71-p86)		
		5週	2次関数2		
		6週	2次関数3		
		7週	いろいろな関数1(教科書p87-p100)		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	答案の返却と解説, いろいろな関数2		
		10週	いろいろな関数3		
		11週	指数関数1(教科書p101-p110)		
		12週	指数関数2		
		13週	対数関数1(教科書p111-p122)		

		14週	対数関数 2	
		15週	(前期末試験)	
		16週	前期末試験の答案の返却と解説	
後期	3rdQ	1週	三角比とその応用 1	
		2週	三角比とその応用 2	
		3週	三角関数 1 (教科書p137-p152)	
		4週	三角関数 2	
		5週	三角関数 3	
		6週	加法定理とその応用 1 (教科書p153-p163)	
		7週	加法定理とその応用 2	
		8週	(後期中間試験)	
	4thQ	9週	答案の返却と解説,	
		10週	点と直線 1 (教科書p164-p174)	
		11週	点と直線 2	
		12週	2次曲線 1 (教科書p175-p193)	
		13週	2次曲線 2	
		14週	2次曲線 3	
		15週	(学年末試験)	
		16週	学年末試験の答案の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	その他	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	
専門的能力		0	0	0	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎数学演習
科目基礎情報					
科目番号	0005	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	問題集: 日本数学教育学会高専・大学部会 教材研究グループTAMS編 ドリルと演習シリーズ 基礎数学 (電気書院)				
担当教員	小林 敏郎, 前澤 孝信, 野村 健作, 寺元 貴幸				
到達目標					
学習目的: 中学校までに習った数学の内容を受けて, これを更に発展させ, 今後習う数学や専門科目に必要な基礎知識を習得することを目的とする。					
到達目標: 1. 因数分解, 分数式の加・減・乗・除, 平方根・複素数を含む問題を解くことができる。 2. 方程式, 不等式, 2次関数などに関する問題を解くことができる。 3. 分数・指数・対数関数などに関する問題を解くことができる。 4. 三角関数などの初等的な関数を理解し計算ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	因数分解, 分数式の加・減・乗・除, 平方根・複素数を含む応用問題を解くことができる。	因数分解, 分数式の加・減・乗・除, 平方根・複素数を含む標準的な問題を解くことができる。	因数分解, 分数式の加・減・乗・除, 平方根・複素数を含む基本的な問題を解くことができる。	因数分解, 分数式の加・減・乗・除, 平方根・複素数を含む基本的な問題を解くことができない。	
評価項目2	方程式, 不等式, 2次関数などに関する応用問題を解くことができる。	方程式, 不等式, 2次関数などに関する標準的な問題を解くことができる。	方程式, 不等式, 2次関数などに関する基本的な問題を解くことができる。	方程式, 不等式, 2次関数などに関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目3	分数・指数・対数関数などに関する応用問題を解くことができる。	分数・指数・対数関数などに関する標準的な問題を解くことができる。	分数・指数・対数関数などに関する基本的な問題を解くことができる。	分数・指数・対数関数などに関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目4	三角関数などに関する応用問題を解くことができる。	三角関数などの初等的な関数を理解し, 標準的な計算ができる。	三角関数などの初等的な関数を理解し, 基本的な計算ができる。	三角関数などの初等的な関数の基本的な計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般 学習の分野: 自然科学系基礎・共通</p> <p>必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修</p> <p>基礎となる学問分野: 数物系科学 / 数学 / 数学基礎</p> <p>学習教育目標との関連: 本科目は「②確かな基礎科学の知識修得」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化である」。</p> <p>授業の概要: この科目は, 2年生以降で習う数学はもちろん専門科目等を学ぶ上で基礎となるもので, 2次方程式や2次不等式の解法, 2次関数, 指数・対数関数, 三角関数などの初等的な関数の基本的な性質, グラフと方程式・不等式との関係等を学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 中学校の復習も含め, 問題集を利用して, 基礎数学の演習を実施していく。学生が演習問題を自主的に解いていくが, 理解の浅い問題に関しては解説する。</p> <p>成績評価方法: 定期試験 (50%), 課題レポート (50%) の合計で評価する。成績の評価を受けるためには, 事前の課題レポートの提出が必須である。定期試験には問題集・ノート・電卓等の持ち込みは許可しない。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 学年の課程修了のためには, 本科目の履修が必要である。成績評価を受けるためには課題レポートの提出が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: 課題レポートを与えるので, 各自で演習問題を解き, 理解を深めること。さらに, 問題集の問題はもとより基礎数学で利用している教科書の問題等も数多く解いて欲しい。</p> <p>基礎科目: 中学校までに習った数学</p> <p>受講上のアドバイス: 必ず, 課題レポートの演習問題を解き, 提出すること。分からないことは講義中に質問する, あるいは放課後に担当教員, 友人あるいは先輩に聞くなどし, 分からないまま放置しないこと。遅刻の回数が多い場合は, 警告を行った後, 欠席扱いとすることもある。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	・ガイダンス, 数と式の計算 (中学校の復習含む。講義と演習。)	整式の加法・減法の計算ができる。	
		2週	・数と式の計算 (整式の加法・減法・積, 中学校の復習含む。講義と演習。)	単項式の積と商, 整式の積, 基本的な展開公式の計算が出来る。	
		3週	・数と式の計算 (式の展開, 因数分解。講義と演習。)	発展的な展開公式, 因数分解(共通因数), 2次式の因数分解の計算ができる。	
		4週	・数と式の計算 (因数分解。講義と演習。)	因数分解(たすきがけ), 因数分解(3次式), 整式の除法の計算ができる。	
		5週	・数と式の計算 (最大公約数, 分数式の加・減・乗・除法。講義と演習。)	最大公約数・最小公倍数, 分数式の約分・乗法・除法, 分数式の加法・減法の計算ができる。	

後期	2ndQ	6週	・数と式の計算（平方根を含む計算，分母の有理化。講義と演習。）	繁分数式，平方根を含む計算，分母の有理化の計算ができる。	
		7週	・数と式の計算（複素数，分母の実数化。講義と演習。）	絶対値，複素数，分母の実数化の計算ができる。	
		8週	（前期中間試験）	出席し答案を提出する。	
		9週	・前期中間試験の返却と解答解説，方程式と不等式（演習）	誤解答を修正する。連立1次方程式，因数分解による2次方程式の解法，解の公式による2次方程式の解法，2次方程式の判別式の計算ができる。	
		10週	・方程式と不等式（演習）	解と係数の関係，2次方程式の立式，恒等式と未定係数法，剰余の定理と因数定理の計算ができる。	
		11週	・方程式と不等式（演習）	因数定理による因数分解，1次不等式，2次不等式，3次不等式の計算ができる。	
		12週	・2次関数（演習）	連立不等式，等式の証明，比例式を条件とする等式の証明，不等式の証明・相加平均と相乗平均の計算ができる。	
		13週	・2次関数（演習）	$y=b, y=ax+b, y=ax^2, y=a/x$ のグラフ，2時間数の標準形，2次関数のグラフと軸との共有点，2次関数のグラフと2次不等式の計算ができる。	
		14週	・2次関数（演習）	・2次関数のグラフと直線との共有点，2次関数の決定，2次関数の定義域と値域，最大値と最小値，2次関数の応用問題の計算ができる。	
	15週	（後期末試験）	答案を提出する。		
	16週	・後期末試験の返却と解答解説	誤解答を修正する。		
	後期	3rdQ	1週	・いろいろな関数（演習）	べき関数，奇関数と偶関数の計算ができる。
			2週	・いろいろな関数（演習）	分数関数(1)，分数関数(2)，分数方程式の計算ができる。
			3週	・指数関数（演習）	無理関数，無理方程式，逆関数の計算ができる。
			4週	・指数関数（演習）	グラフの平行移動，グラフの対称移動，グラフの拡大と縮小の計算ができる。
			5週	・中学校の復習，対数関数（演習）	累乗根，指数法則，指数関数の計算が出来，そのグラフが描ける。
6週			・対数関数（演習）	指数方程式・不等式，対数の性質，底の変換公式の計算ができる。	
7週			・三角比とその応用（演習）	対数関数のグラフ，対数方程式・不等式，常用対数の計算ができる。	
8週			（後期中間試験）	出席し答案を提出する。	
4thQ		9週	・後期中間試験の返却と解答解説，三角比とその応用（演習）	誤解答を修正する。鋭角の三角比，三角比の計算，余弦定理の計算ができる。	
		10週	・三角関数（演習）	正弦定理，三角形の面積，一般角と弧度法，扇形の弧の長さとの面積の計算ができる。	
		11週	・三角関数（演習）	一般角の三角関数，三角関数の相互関係，三角関数の性質の計算ができる。	
		12週	・三角関数（演習）	正弦関数のグラフ，余弦関数のグラフ，正接関数のグラフが描ける。	
		13週	・加法定理とその応用（演習）	三角関数のグラフの性質，三角関数の加法定理，2倍角・半角の公式の計算ができる。	
		14週	・加法定理とその応用（演習）	積和・和積の公式，三角関数の合成，三角方程式と三角不等式の計算ができる。	
		15週	（後期末試験）	答案を提出する。	
		16週	・後期末試験の返却と解答解説	誤解答を修正する。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理 I
科目基礎情報					
科目番号	0006	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	三浦他「物理基礎」東京書籍/岡山県高等学校理科協議会物理分科会編「物理学習実験書(上・下)」/「ニューグローバル物理基礎+物理」東京書籍/「レッツトライノート 物理基礎シリーズ 数学編, 力学編」東京書籍				
担当教員	佐藤 誠, 中村 重之, 井上 浩行, 寺元 貴幸				
到達目標					
1. 自然現象を科学的に解明するための物理的な見方, 考え方に慣れる。 2. 物理学が工学を学ぶ上で必要不可欠の知識であることを認識する。 3. 物体の運動に関する基礎的な計算ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	2次元の放物運動を解析できる	典型的な加速度運動を解析できる	典型的な加速度運動を解析できない		
評価項目2	比較的複雑な力学系でモデルを構築し運動方程式を立式して解析できる	物体に加わる力が一定の典型的な力学系でモデルを構築し運動方程式を立式して解析できる	物体に加わる力が一定の典型的な力学系でモデルを構築できない		
評価項目3	力学的エネルギーについて詳細に説明でき, 解析ができる	力学的エネルギーを解析できる	力学的エネルギーを解析できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	物体の運動はどのように表されるかを学習する。速度や加速度の概念やニュートンの運動方程式について学び, 自然界の様々な現象の法則性を見いだす。 学習目的: 物理学は自然科学や工学における最も基礎的な分野である。したがって, その内容を十分に理解しておくことが専門の授業のみならず, 卒業後, 技術者として創造的な仕事をするために重要である。				
授業の進め方・方法	教師は学習進度のペースメーカーとして, 毎授業時に事前の学習範囲を指示する。また, LMS上に事前学習資料を提示する。問題集も含め自学自習を進めること。授業では個人学習した内容を深めるため, 演習実験, 演習, ディベートを中心に協同学習を行う。授業では教科書の説明や物理概念の説明は行わない。授業毎に各自の学習進捗をポートフォリオに記録し, 学習成果を可視化する。学習の自己管理能力の育成に重点を置いた授業を行う。週1回2時間の講義である。半期ごとに3回程度の物理実験を行う。				
注意点	本科目は必修科目のため1学年の課程修了には履修が必須である。授業では学習の仕方を学ぶ。知識は各自で自学自習すること。基礎概念の理解と応用に主眼をおいて学習して欲しい。数式計算, 2次方程式, 三角関数など基礎数学をしっかり身に付けることを意識的に行うことが物理を学ぶために重要である。授業に積極的に参加し, 協同学習の中で個人学習による理解の不足を学生間で補うこと。演習や課題は自分の手で問題を解き, 悩むことが理解への早道である。安易な学習は結局身に付かず時間と労力の浪費と認識せよ。学習ハードルの高い科目であるが, 努力した分見返りの大きい科目でもある。遅刻は授業開始後20分まで, 以後は欠席扱いとする。3回の遅刻は1時間の欠席として扱うので注意すること。成績評価には関わらない。 数物系科学/物理/物理一般 本科目は「②確かな基礎科学の知識修得」に相当する科目である。 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化である。」				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス/物理に必要な基礎知識	学習方法の理解	
		2週	有効数字/単位の変換/数式計算/グラフ	有効数字の理解 グラフの描き方の理解	
		3週	運動の実験	同上の実践	
		4週	速度, 加速度	運動の表し方の理解	
		5週	速度, 加速度	同上	
		6週	平面運動/ベクトル/三角関数/落体の運動	2次元の運動の表し方の理解	
		7週	等加速度運動の実験	v-tグラフから加速度を求める	
		8週	前期中間到達度確認試験 (1st Gate Exam.)	60点以上のスコア	
	2ndQ	9週	前期中間到達度確認試験の解説と返却/力	試験内容の見直しと理解 力の定義	
		10週	力のつり合い	つり合いと作用反作用の区別	
		11週	力の具体的な例	重力, 垂直抗力の理解	
		12週	弾性力	弾性力の理解	
		13週	静止摩擦・動摩擦	抗力と摩擦力の理解	
		14週	斜面上の物体にはたらく力	斜面上の物体にはたらく力の理解	
		15週	摩擦力の実験	最大摩擦力と垂直抗力の関係の理解	
		16週	前期末到達度確認試験 (2nd Gate Exam.)	60点以上のスコア	
後期	3rdQ	1週	前期末到達度確認試験の解説と返却/後期ガイダンス/運動の法則	試験内容の見直しと理解 慣性の法則の理解	
		2週	運動の法則	慣性の法則の理解	
		3週	運動の法則	運動の法則の理解	
		4週	運動の法則の実験	作用反作用の理解	
		5週	運動の法則	運動の法則の理解	
		6週	運動方程式	運動方程式の理解と計算	
		7週	いろいろな運動(斜面, 摩擦)	斜面上の物体の運動解析	

4thQ	8週	いろいろな運動（2物体）	複数物体の運動方程式の立式
	9週	後期中間到達度確認試験（3rd Gate Exam.）	60点以上のスコア
	10週	後期中間到達度確認試験の解説と返却／仕事	試験内容の見直しと理解 仕事の定義の理解
	11週	位置エネルギー	位置エネルギーの理解
	12週	運動エネルギー	運動エネルギーの理解
	13週	力学的エネルギー保存則	力学的エネルギーの理解と保存則の理解
	14週	力学的エネルギー保存の実験	力学的エネルギー保存の理解
	15週	後期末到達度確認試験（4th Gate Exam.）	60点以上のスコア
16週	後期末到達度確認試験の解説と返却	試験内容の見直しと理解	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	0	0	0	70	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	70	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	生物 I
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 文部科学省検定済教科書「生物基礎」(東京書籍) 参考書: スクエア最新図説生物 (第一学習社)				
担当教員	柴田 典人, 前澤 孝信				
到達目標					
1. 生物の共通性と多様性について理解している。 2. すべての生物に共通する遺伝情報としてのDNAの性質について説明できる。 3. 体内環境の調節機構について理解している。 4. 地球の生態系について説明できる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	生物の共通性と多様性について理解し、具体例を挙げながら説明できる。	生物の共通性と多様性について理解し、説明できる。	生物の共通性と多様性について理解している。	生物の共通性と多様性について理解していない。	
評価項目2	DNAの性質について理解し、DNAが遺伝情報を担う仕組みと利点について説明できる。	DNAの性質について理解し、DNAが遺伝情報を担う仕組みについて説明できる。	あらゆる生物に共通したDNAの性質について説明できる。	あらゆる生物に共通したDNAの性質について説明できない。	
評価項目3	体内環境の調節機構を理解し、体内の恒常性維持の仕組みについて複数の具体例を説明できる。	体内環境の調節機構を理解し、恒常性維持の仕組みについて説明できる。	体内環境の調節機構を説明できる。	体内環境の調節機構を説明できない。	
評価項目4	地球上の生態系について説明でき、具体的な保全の方法を考えられる。	地球上の生態系について説明でき、保全の方法を知っている。	地球上の生態系について説明できる。	地球上の生態系について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般・自然科学系共通・基礎 必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修 基礎となる学問分野: 生物学/基礎生物学 学科学習目標との関連: 一般生物学(先進科学系2年), 応用生物学(全系4年) 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化, A-1: 工学に関する基礎知識として, 自然科学の幅広い分野の知識を修得し, 説明できること」である。 授業の概要: 分子生物学や生命工学の発展により生命現象は分子, 細胞レベルで理解できるようになった。また, 地球上の生態系は我々の生命活動により様々に変化する。生物学は理学分野のみならず, 工学や医学, 農学といった幅広い分野で基礎的な素養が必要とされる領域となった。本講義では生物学の基礎について解説する。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 図・表などの資料をプロジェクターにより投影, あるいは板書により解説しながら要点を解説する。適時, 授業内容に即したレポート課題を出し, 復習と自主学習を促す。 成績評価方法: 4回の定期試験の得点をそれぞれ同等に評価(70%)し, 各定期試験までの小テスト, レポートおよび授業態度をこれに加味(30%)して, その都度評価する。原則として, 前期成績は中間期末成績との, 学年成績は全結果の単純平均とする。試験には教科書・ノートの持ち込みを許可しない。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 本科目は必履修科目のため1学年の課程修了には履修(欠席時間数が所定授業時間数の3分の1以下)が必須である。 履修のアドバイス: 生物の単語を暗記するのではなく, 生命現象の仕組みを理解して身につけて欲しい。 基礎科目: 中学までの理科 関連科目: 一般生物学(先進科学系2年), 応用生物学(全系4年) 受講上のアドバイス: レポート課題は期限を厳守すること。遅刻は授業の時間の半分を経過した時点で欠席として扱う。講義やそれに関連したことで疑問があれば, 積極的に質問し, 理解を深めて欲しい。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス, 生物の多様性と共通性(教科書p.10-17)		
		2週	生物と遺伝子, DNAの構造(教科書p.44-47)		
		3週	DNAの抽出実験1		
		4週	ゲノムと遺伝情報(教科書p.48-53)		
		5週	ゲノムと遺伝情報(教科書p.48-53)		
		6週	遺伝情報とタンパク質の合成(教科書p.62-71)		
		7週	遺伝情報とタンパク質の合成(教科書p.62-71)		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解答解説		
		10週	細胞分裂とDNAの複製(教科書p.54-61)		
		11週	細胞分裂とDNAの複製(教科書p.54-61)		
		12週	生命活動とエネルギー(教科書p.18-29)		

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	音楽
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	教科書:『高校生の音楽1』(教育芸術社) 副教材:高校生のための音楽研究ノート				
担当教員	長尾千枝 (一般)				
到達目標					
1. 歌唱, ギター, アンサンブルを通して, 創造的な表現力を伸ばすとともに協調性を身につける。 2. 音楽の基本的な知識を習得し, 楽譜を読む力を身につける。 3. 鑑賞では多様な音楽の持つ特徴を感じ, 音楽の要素を理解し聴く能力を高める。 ◎目標達成のために他者と協調・協働して行動できる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	創意工夫を生かした音楽表現をするため, グループで協力し, 演奏技能を身に付け優れた演奏ができる。	創意工夫を生かした音楽表現をするため, グループで協力し, 演奏技能を身に付けて演奏している。	創意工夫を生かした音楽表現をするため, グループで協力し演奏技能を身に付ける努力をしている。	左記に達していない。	
評価項目2	楽曲の特徴や演奏を解釈し, その良さや美しさを主体的に味わい説明できる。	楽曲の特徴や演奏を解釈し, その良さや美しさを味わっている。	楽曲の良さや美しさを味わっている。	左記に達していない。	
評価項目3	音楽の基本的な知識を習得し, 音楽の理解を深め, 他者と協調・協働して主体的に音楽活動ができる。	音楽の基本的な知識を習得し, 音楽を理解して, 他者と協調・協働して音楽活動ができる。	音楽の基本的な知識を習得し, 他者と協調・協働する努力をしている。	左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別・学習の分野: 一般・芸術 必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修 基礎となる学問分野: 芸術 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は, 「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」である。 授業の概要: イタリア語やドイツ語の歌やギターの奏法を学び, 表現を工夫して演奏する。いろいろなジャンルの音楽に触れ, その背景となる文化や歴史を探り音楽の視野を広げる。 学習目的: 音楽の幅広い活動を通して, 生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに, 感性を高め, 創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし, 音楽文化についての理解を深める。				
授業の進め方・方法	授業の方法: 歌唱・アンサンブルは協力して演奏できるように, またギターは各自演奏技術の上達を自覚できるように指導する。鑑賞では視聴覚教材を使って, 多様な音楽に触れる。 成績評価方法: 年2回の実技発表40%, 年2回の期末試験40% (内訳は20%×4) 鑑賞の記録・楽典問題 (20%) 中間試験は行わず, 授業時間内の実技発表に替える。期末試験では教科書の持ち込みを許可する。再試験は原則として行わない。				
注意点	履修上の注意: 本科目は, 1学年の課程修了のために履修(欠席時間数が所定授業時間数の3分の1以下)が必須である。 履修のアドバイス: 実技を伴う活動では積極的に参加し, 楽典や鑑賞では主体的に学ぶこと 受講上のアドバイス: 実技発表は完成度だけでなく, 普段の取り組みも重視して評価する。ギターは各自目標を設定し, ワークシートに練習の経過や自己評価などを記入し期限までに提出すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス, 校歌の歌唱		
		2週	校歌, 日本語の歌の歌唱		
		3週	校歌, イタリア語・イタリア歌曲の歌唱・鑑賞		
		4週	校歌, イタリア歌曲, ドイツ語・ドイツ歌曲の歌唱・鑑賞		
		5週	校歌, イタリア歌曲, ドイツ歌曲の歌唱・鑑賞		
		6週	クラッピング・アンサンブルの創作		
		7週	クラッピング・アンサンブルの創作・練習		
		8週	クラッピング・アンサンブルの創作・練習		
	2ndQ	9週	クラッピング・アンサンブルの発表		
		10週	楽典(五線譜, 音名)・鑑賞		
		11週	楽典(音名, 音符と休符)・鑑賞		
		12週	楽典(音符と休符, リズム)・鑑賞		
		13週	楽典(リズム, 拍子)・鑑賞		
		14週	楽典(演奏順序の記号)		
		15週	前期末試験		
		16週	前期末試験の返却と解答解説		
後期	3rdQ	1週	ギターの各部名称, 調弦		
		2週	ギターの調弦, 基本的な奏法, タブ譜の読み方		
		3週	1・2弦による単旋律の課題曲練習		
		4週	1・2弦による単旋律の課題曲練習		
		5週	実技テスト		

4thQ	6週	すべての弦による単旋律の練習	
	7週	課題曲の練習	
	8週	課題曲の練習	
	9週	実技発表	
	10週	実技発表	
	11週	楽典（音程）	
	12週	楽典（音程, 和音）	
	13週	楽典（和音, コードネーム）	
	14週	楽典（コードネーム）	
	15週	後期末試験	
16週	後期末試験の返却と解答解説		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	40	40	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	20	0	0	0	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	20	0	0	0	0	20

津山工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 I
科目基礎情報				
科目番号	0009	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	1	
開設期	通年	週時間数	3	
教科書/教材	教科書: 高島英幸監修・鈴木寿一(ほか)著 NEW FLAG I (増進堂)・その他: Listening Box PRE (改定版) (啓林館), 改訂版 英単語VALUE 1000 (教研出版), 予習ノート (教科書専用), 音声CD, A4サイズのファイル (2つ穴), 英和辞典・和英辞典 (電子辞書もしくは冊子)			
担当教員	山口 裕美, 山口 均			
到達目標				
学習目的: 4技能 (聴き・読み・書き・話す) をバランスよく養成する。				
到達目標: 1・英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ, 自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。 2・高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することができる。 3・英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。 4・本文の要旨を英語または日本語でまとめることができる。 ◎ コミュニケーションツールとしての口述, 記述, 図表などの特徴をあげることができる。				
ループリック				
	優	良	可	不可
評価項目1	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ, 自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることが十分できる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ, 自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ, 自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることが最低限できる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ, 自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができない。
評価項目2	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することが十分できる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することができる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することが最低限できる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することができない。
評価項目3	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが十分できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが最低限できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができない。
評価項目4	本文の要旨を英語または日本語でまとめることが十分できる。	本文の要旨を英語または日本語でまとめることができる。	本文の要旨を英語または日本語でまとめることが最低限できる。	本文の要旨を英語または日本語でまとめることができない。
評価項目5	コミュニケーションツールとしての口述, 記述, 図表などの特徴をあげることが十分できる。	コミュニケーションツールとしての口述, 記述, 図表などの特徴をあげることができる。	コミュニケーションツールとしての口述, 記述, 図表などの特徴をあげることができる。	コミュニケーションツールとしての口述, 記述, 図表などの特徴をあげることができない。
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	一般・専門の別: 一般 学習の分野: 英語 必修・必履修・履修・履修選択・選択の別: 必履修 基礎となる学問分野: 英語学・英米 / 英語圏文学・言語学・音声学 学科学習目標との関連: 本科目は「④教養豊かな実践的人間力の養成」, 「⑤グローバルな視点と社会性の養成」, 「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の育成」であるが, 付随的には「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」に関与する。 授業の概要: 検定教科書の様々な分野の英文を用いて, 内容理解をおこなったうえで, 音読や簡単な作文といったアウトプット (話す・書く) 活動を実施する。また, その基盤となるインプット (語彙・文法力) 活動を実施する。			
授業の進め方・方法	(山口裕) 授業冒頭にリスニングの訓練をおこなう。読解・音読のために, 英文の区切りを見つける練習をおこなう。リスニング, 読解による内容理解の後, 音読練習や要旨作成などの活動をおこなう。 (山口均) 文法を理解した後, 音読によるインテイクや活用演習をペアやグループでおこなう。単語集を用いて, 語彙学習をおこなう。 成績評価方法: 前期中間試験から後期中間試験までは, 定期試験の結果を平均して評価する (60%)。定期試験の結果に加え, 平素の小テスト・課題・授業ノートなど (40%) を総合して成績評価をおこなう。年度末の成績評価は, 後期末試験までに加え, 上記の方法で算出された結果を90%に換算し, GTECの結果 (リーディング・リスニング) を10%加えて評価する。試験には教科書・ノートの持込みを許可しない。 場合によっては再試験を実施する。積極的に授業に参加すること。			

注意点	履修上の注意：本科目は学年の課程修了のために履修が必須である。
	履修上のアドバイス：予習・復習・課題を指示するので必ず取り組むこと。GTECを必ず受験すること。
	基礎科目：中学校での学習事項・英語表現I（1年）
	関連科目：英語II（2）・英語表現II（2）
	受講上のアドバイス：積極的に授業に参加すること。講義ならびに音読や英作文の活動は、運用能力向上のための基礎となる。そのため、必ず、教科書・予習ノート・英和辞書・和英辞典を持参し、予習や課題を取り組んだうえで授業に臨むこと。後期中間試験中に実施されるGTECを必ず受験すること。英検などの資格・検定試験を積極的に受験することが望ましい。
	遅刻について：授業開始5分すぎでの入室は欠課扱いとする。

授業計画		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス（予習・復習など学習法の説明，受講上の注意）	年間を通じての学習方法を理解し、学習計画の見通しを立てる。
		2週	Chapter 1 Part 1	英語でコミュニケーションができる日本の有名なスポーツ選手について書かれた英文が理解できる。SVO・SVCを理解し、活用する。
		3週	Chapter 1 Part 2（山口裕美）／ 電子辞書の使い方（山口均）	英語でコミュニケーションができる日本の有名なスポーツ選手について書かれた英文が理解できる。現在形・過去形を理解し、活用する。基本的な電子辞書の使い方を理解する。
		4週	Chapter 1 Part 3	英語でコミュニケーションができる日本の有名なスポーツ選手について書かれた英文が理解できる。未来の表現を理解し、活用する。
		5週	Chapter 2 Part 1	様々な方法で世界一周に挑戦した冒険家について書かれた英文が理解できる。SVOCを理解し、活用する。
		6週	Chapter 2 Part 2	様々な方法で世界一周に挑戦した冒険家について書かれた英文が理解できる。SVOOを理解し、活用する。
		7週	Chapter 2 Part 3	様々な方法で世界一周に挑戦した冒険家について書かれた英文が理解できる。不定詞を理解し、活用する。
		8週	前期中間試験	現時点の英語力を確認する。
	2ndQ	9週	前期中間試験返却と解説	前期中間試験までの振り返りと今後の学習目標を立てる。
		10週	Chapter 3 Part 1, 2	英語の学習における音読の効果と英語の学び方を知る。動名詞・that（名詞節）を理解し、活用する。
		11週	Chapter 3 Part 3, 4	英語の学習における音読の効果と英語の学び方を知る。比較表現・不定詞（副詞用法）を理解し、活用する。
		12週	Chapter 3 復習	学習内容を再確認し、課題を見つけ取り組む。
		13週	Chapter 5 Part 1, 2	今日までのアイスクリームの歴史について書かれた英文が理解できる。SVO to do・過去分詞後置修飾を理解し、活用する。
		14週	Chapter 5 復習	学習内容を再確認し、課題を見つけ取り組む。
		15週	前期末試験	現時点の英語力を確認する。
		16週	前期末試験の返却と解説・夏休みの課題説明	前期末試験までの振り返りと今後の学習目標を立てる。
後期	3rdQ	1週	夏休み課題テスト	課題実施の成果をテストにより確認する。
		2週	Chapter 7 Part 1, 2	環境問題について書かれた英文が理解できる。過去完了形・関係代名詞whatを理解し、活用する。
		3週	Chapter 7 Part 3, 4	環境問題について書かれた英文が理解できる。SVOC（do）・助動詞の受け身を理解し、活用する。
		4週	Chapter 7 復習	学習内容を再確認し、課題を見つけ取り組む。
		5週	Chapter 8 Part 1, 2	書道を用いた英語と日本語の文字文化について考える。分詞構文・関係副詞whenを理解し、活用する。
		6週	Chapter 8 Part 3, 4	書道を用いた英語と日本語の文字文化について考える。強調構文・SVOC（done）を理解し、活用する。
		7週	Chapter 8 復習	学習内容を再確認し、課題を見つけ取り組む。
		8週	後期中間試験	現時点の英語力を確認する。
	4thQ	9週	後期中間試験返却と解説	後期中間試験までの振り返りと今後の学習目標を立てる。
		10週	Chapter 9 Part 1, 2（冬休み課題，詳細は別途指示する）	宇宙について書かれた英文を理解する。as if ～・仮定法過去を理解し、活用する。
		11週	冬休み課題テスト	課題実施の成果をテストにより確認する。
		12週	Chapter 9 Part 3, 4	宇宙について書かれた英文を理解する。関係副詞why・仮定法過去完了を理解し、活用する。
		13週	Chapter 10 Part 1, 2	手塚治虫の人生哲学について書かれた英文が理解できる。過去完了の受け身・関係副詞howを理解し、活用する。

	14週	Chapter 10 Part 3, 4	手塚治虫の人生哲学について書かれた英文が理解できる。 関係副詞where・同格thatを理解し、活用する。
	15週	後期末試験	現時点の英語力を確認する。
	16週	後期末試験の返却と解説	1年間の振り返りと今後の学習目標を立てる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	自己評価	態度	課題	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	5	0	25	10	100
基礎的能力	50	0	5	0	25	10	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語表現 I
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 文部科学省検定教科書 Revised Vision Quest English Expression 1Standard 参考書等: Vision Quest 総合英語Ultimate, Revised Vision Quest Standard ワークブック, Revised Vision Quest Standard生徒用音声CD, Revised Vision Quest Standard高校英語入門New Edition, Sonic Reading Stage①				
担当教員	高橋 雅幸				
到達目標					
<p>1. 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。</p> <p>2. 高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得し英語表現に利用することができる。</p> <p>3. 英文を正しく音読することができる。</p> <p>4. 学習内容をふまえて英語で自己表現ができる。</p> <p>5. 上記に資するように、精読、速読、多読等のスキルを高める。</p>					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができない。	
評価項目2	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得し英語表現に利用することができる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得し英語表現に利用することができる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得し英語表現に利用することができる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得し英語表現に利用することができない。	
評価項目3	英文を正しく音読することができる。	英文を正しく音読することができる。	英文を正しく音読することができる。	英文を正しく音読することができない。	
評価項目4	学習内容をふまえて英語で自己表現ができる。	学習内容をふまえて英語で自己表現ができる。	学習内容をふまえて英語で自己表現ができる。	学習内容をふまえて英語で自己表現ができない。	
評価項目5	英語運用能力向上のために、精読、速読、多読等のスキルを高めることにたいへん成功した。	英語運用能力向上のために、精読、速読、多読等のスキルを高めることに成功した。	英語運用能力向上のために、精読、速読、多読等のスキルを高めることにわりと成功した。	英語運用能力向上のために、精読、速読、多読等のスキルを高めることができなかった。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般 必修・必修履修・履修選択・選択の別: 必修修 学習の分野: 英語</p> <p>基礎となる学問分野: 英語・英米文学/言語学・音声学</p> <p>学習教育目標との関連: 本科目は「①教養豊かな実践的人間の育成」、「⑤グローバルな視点と社会性の養成」、「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成」であるが、付随的には「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」に關与する。</p> <p>授業の概要: 教科書の内容・文法の順に学習し、スピーキング、ライティングの表現活動を行う。またそのためのスキルを磨く。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 授業では音読活動や表現活動など様々な活動をペアやグループなど様々な形態で行うことが中心で、積極的な参加が望まれる。また多読等も取り組む。</p> <p>成績評価方法: 4回の定期試験の結果を同等に評価する(50%)。「平素の演習・小テスト・音読テストなどのパフォーマンス評価・授業への積極的参加(課題提出を含む)・多読・長期休暇課題等」(50%)との総合計により評価する。最終成績に関しては、4回の評定の平均を9割に換算して、GTECライティングパートの結果を10%加算する。再試は原則として行わない。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 課程修了のため履修が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: 予習、復習の内容を明確にするので指示に従いきっちり取り組むこと。</p> <p>基礎科目: 中学までの英語授業 英語 I (1年)</p> <p>受講上のアドバイス: 積極的に発言し、活動へ参加すること。遅刻について: 授業時間の10分を過ぎての入室は欠課扱いとする。遅刻が頻繁な場合、欠課に換算することがある。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	Lesson 1		
		3週	Lesson 1		
		4週	Lesson 2		
		5週	Lesson 2		
		6週	Lesson 3		
		7週	Lesson 3, 音読テスト/ インタビューテスト, 課題提出		
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解答解説, Lesson 4		
		10週	Lesson 4		
		11週	Lesson 4		
		12週	Lesson 5		
		13週	Lesson 5		

		14週	Lesson 5, 音読テスト/ インタビューテスト, 課題提出	
		15週	前期末試験の返却と解答解説	
		16週		
後期	3rdQ	1週	Lesson 6	
		2週	Lesson 6、Lesson 7	
		3週	Lesson 7、Lesson8	
		4週	Lesson8	
		5週	Lesson 9、音読テスト/ インタビューテスト, 課題提出	
		6週	(後期中間試験)	
		7週	後期中間試験の返却と解答解説, Lesson10	
		8週	Lesson10	
	4thQ	9週	Lesson10	
		10週	Lesson 11	
		11週	Lesson 11、Lesson 12	
		12週	Lesson 12	
		13週	Lesson 12、音読テスト/ インタビューテスト, 課題提出	
		14週		
		15週	後期末試験の返却と解答解説	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	課題	小テスト	合計
総合評価割合	100	40	40	20	200
総合評価能力	50	20	20	10	100
基礎的能力	50	20	20	10	100

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健・体育 I
科目基礎情報					
科目番号	0011	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実技	単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	3		
教科書/教材	教科書: 大修館書店編集部『図説現代高等保健体育』(大修館書店) 参考書: 高橋健夫ほか(編)『ステップアップ高校スポーツ』(大修館書店) その他, 授業に応じてプリントやビデオを使用する。				
担当教員	内倉 康二, 荒木 祥一				
到達目標					
<p>学習目的: 各種スポーツを行うなかで, 個人的, 集団的運動技術を習得しながら, 様々な運動課題に対して自ら学び考え, 解決していく力を身につける。さらに, グループとしての活動を通して, 「他者の意見を聞くこと」, 「他者と協力すること」といった, 集団行動に必要な力を身につける。また, 保健においても体育同様には, 今日健康関する各種問題について理解を深めつつ, 自ら考え, 解決していく力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種スポーツの技術・戦術を理解し, 実施できる。 2. 他者の意見を正しく理解し, 他者の意見に対する, 自らの意見を明確に表現できる。 3. 周囲の状況と自らの立場を照らし合わせ, 自身の長所を活かしながら集団の中で行動ができる。 4. 課題の解決や目標達成のために, 自らの役割を認識し, 率先して行動したり, 他者と協調して行動したりすることができる。 					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	各種スポーツの技術・戦術を理解し, さらに表現できる。	各種スポーツの技術・戦術について理解している。	各種スポーツの技術・戦術について5割程度理解している。	各種スポーツの技術・戦術についてまったく理解していない。	
評価項目2	他者の意見を理解し, それを踏まえて自らの意見を表現できる。	他者の意見をいつでも聞くことができる。自らの意見をいつでも表現できる。	他者の意見を聞くことができる。自らの意見を表現しようとすることができる。	他者の意見を全く聞き入れない。自らの意見を全く表現できない。	
評価項目3	置かれた状況を理解し, その中で, 自らの長所を発揮しながら集団の中で行動できる。	集団の中で, どういった状況に置かれているのかを理解することができる。また, 集団の調和を乱すことなく行動できる。	集団の中で, どういった状況に置かれているのかを理解しようとする。	置かれた状況に関わらず, 自らの欲求を満たす行動を取り, 集団の調和を乱す。	
評価項目4	課題解決や目標達成のために, 何が必要であるかわかり, 他者と協調しながら, 自らすべきことを遂行することができる。	課題が何であるのかを認識することができる。また, その解決や目標の達成に向けて努力することができる。	課題を認識しようとし, 課題を解決する手段を考えることができる。	課題が何であるのかを認識することができていない。また, 目標の達成に向けて行動を伴わない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般・保健体育</p> <p>必修・履修・履修選択・選択の別: 必修</p> <p>基礎となる学問分野: 複合領域/健康・スポーツ科学</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B-3)芸術やスポーツをとおして広く教養を身に付け, これに基づいて自己表現できること」であるが, 付随的に「(D-3)課題解決のために他者と共通認識を形成しながら, 組織的な取り組みができること」である。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 体育においては, 基礎的な技術を学んだ上で, ゲームを中心とした授業を実施する。なお, 天候等により, 内容を変更することもある。また, 保健の授業は板書・プリント等を用いた説明を中心に具体的事例を取り上げながら進めていく。</p> <p>成績評価方法: 授業での小テスト(50%:個人的及び集団的技術の理解・習得ができていないか), 課題解決能力の判定(30%:毎回授業に参加し, 自らの技術上の課題を認識し, 他者の意見を参考にしながら, 自らの能力向上に努めているか), 主体性及び協調性の判定(20%:授業において, 自ら率先して行動したり, 他者と協力したりできているか)を総合して評価する。なお, 遅刻や欠課は成績に反映される。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 学年の課程修了のためには履修(欠席時間数が所定授業時間数の5分の1以下)・修得が必要である。運動に適した服装で, 装飾品(時計, ネックレス等)を一切身に付けていない状態で受講すること。</p> <p>履修のアドバイス: 特別なアドバイスはないが, 今後, 学年が上がるごとに高度な運動技術が要求されていくので, その素地をしっかりと身につけるようにする。</p> <p>基礎・関連科目: 中学校までの保健体育, 保健・体育Ⅱ(2年), 保健・体育Ⅲ(3年), 体育(4年)</p> <p>受講上のアドバイス: 授業開始時間から5分を超えて授業に参加した場合は「遅刻」, 20分を超えて授業に参加した場合は「欠課」扱いとする。さらに4回の遅刻で1回の欠課とみなす。実技系科目であるので, 毎回の授業に出席することが大切であるが, 「出席さえしておけばよい」「テストさえできればよい」という考えを持たないこと。毎回の授業を通して, 常に自分の能力を向上させようとする意欲と態度を持ちながら授業に取り組むことが大切である。服装や授業の準備・後片づけ, 審判や得点係などの仕事についても, スポーツにおいて重要なものであることを学び, 実践して欲しい。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス		
		2週	スポーツテスト		

		3週	スポーツテスト		
		4週	陸上競技 (ジャベリックスロー・走り幅跳び等)		
		5週	陸上競技 (ジャベリックスロー・走り幅跳び等)		
		6週	陸上競技 (ジャベリックスロー・走り幅跳び等)		
		7週	器械運動 (マット運動)		
		8週	器械運動 (マット運動)		
		2ndQ	9週	器械運動 (マット運動)	
			10週	水泳 (クロール・平泳ぎ)	
	11週		水泳 (クロール・平泳ぎ)		
	12週		水泳 (クロール・平泳ぎ)		
	13週		水泳 (クロール・平泳ぎ)		
	14週		水泳 (クロール・平泳ぎ)		
	15週		水泳 (クロール・平泳ぎ)		
	16週				
	後期	3rdQ	1週	バスケットボール	
			2週	バスケットボール	
3週			バスケットボール		
4週			バスケットボール		
5週			バスケットボール		
6週			バスケットボール		
7週			バスケットボール		
8週			バスケットボール		
4thQ		9週	バスケットボール		
		10週	バスケットボール		
		11週	陸上競技 (長距離走), 保健 (1時間/週) (天候次第でニュースポーツを実施)		
		12週	陸上競技 (長距離走), 保健 (1時間/週) (天候次第でニュースポーツを実施)		
		13週	陸上競技 (長距離走), 保健 (1時間/週) (天候次第でニュースポーツを実施)		
		14週	陸上競技 (長距離走), 保健 (1時間/週) (天候次第でニュースポーツを実施)		
		15週	陸上競技 (長距離走), 保健 (1時間/週) (天候次第でニュースポーツを実施)		
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	授業態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	0	0	0	20	30	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	20	30	50	100

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合理工入門			
科目基礎情報								
科目番号	0012		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材								
担当教員	松田 修,加藤 学,嶋田 賢男,寺元 貴幸							
到達目標								
レポート作成の基本的な方法, 各系の概要を学ぶ。 1. レポート作成の基本的な流れを理解している。 2. 各系の概要を理解し, それらの内容を整理し, 的確な文章で説明できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	レポート作成の基本的な流れをよく理解し, それに基づいて適切なレポートが作成できる。		レポート作成の基本的な流れを理解している。		レポート作成の基本的な流れを理解していない。			
評価項目2	各系の概要を理解して, それらの内容を整理し, 的確な文章で説明できる。		各系の概要を理解して, それらの内容を整理し, 文章で説明できる。		各系の概要を整理できず, 説明できない。			
評価項目3								
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	本科目は総合理工学科の学習目標「(4) 分野横断的な融合力の育成」である。本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化, A-1: 工学に関する基礎知識として, 自然科学の幅広い分野の知識を修得し, 説明できること」である。基礎となる学問分野: 数学, 自然科学, 機械工学, 電気・電子工学, 情報工学 2年生以降で学ぶ専門科目の概要を学ぶ。							
授業の進め方・方法	4クラスに分かれて, 各系につき4週ずつ, 2年生以降で学ぶ専門科目の概要を聴講する。先進科学系: 数学, 物理, 化学, 生物の面白い話題を紹介する。機械システム系: 複数名の教員によって機械システム系の学習内容, 進路や研究内容など幅広く紹介する。電気・電子システム系: 複数名の教員によって電気・電子システム系の学習内容, 進路や研究内容など幅広く紹介する。情報システム系: 複数名の教員によって情報システム系の学習内容, 進路や研究内容など幅広く紹介する。評価は各系のテーマに課せられているレポート等の提出に対して行う。各テーマを均等に評価する。							
注意点	2年生から配属する系を決定するためのヒントとして欲しい。 関連科目: 総合理工実験・実習(1年), 全系横断演習Ⅰ(3年), 全系横断演習Ⅱ(4年) 遅刻は10分までとし, 遅刻の回数が多い場合は, 警告を行った後, 欠課扱いとすることもある。							
授業計画								
		週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	総合ガイダンス, レポート作成法(全クラス合同)					
		2週	先進科学入門					
		3週	機械システム入門					
		4週	電気電子システム入門					
		5週	情報システム入門					
		6週	レポート作成指導					
		7週	先進科学入門					
		8週	機械システム入門					
	2ndQ	9週	電気電子システム入門					
		10週	情報システム入門					
		11週	レポート作成指導					
		12週	先進科学入門					
		13週	機械システム入門					
		14週	電気電子システム入門					
		15週	情報システム入門					
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週			
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合理工基礎
科目基礎情報				
科目番号	0013	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	1	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 電気回路 「電気基礎 上」 (東京電機大学出版) 適宜プリントも配布する。 プログラミング プリント 教材 参考書: 電気回路 「演習電気基礎 上」 (東京電機大学出版)			
担当教員	西尾 公裕, 竹谷 尚, 松島 由紀子			
到達目標				
学習目的: 電気的基础を理解することで、今後の専門科目が理解しやすくなるように、電気電子工学の最も基本と考えられる直流回路の内容を理解することを目的とする。また、コンピュータやプログラミングの基礎を理解するとともに、アルゴリズムの表現方法について学び、使えるようにする。				
到達目標 電気回路 1. 直流回路の解析方法を説明できる。 2. 直流回路の定量的な計算ができる。 プログラミング 1. PAD (Problem Analysis Diagram) やフローチャートでアルゴリズムを記述できる。 2. C言語のプログラミングの基礎を理解し、アルゴリズムに基づいてプログラムを作成できる。				
ルーブリック				
	優	良	可	不可
電気回路 評価項目1	直流回路の解析方法を理解し、的確に説明することができる。	直流回路の解析方法を理解し、説明することができる。	直流回路の解析方法を大まかに説明することができる。	直流回路の解析方法を理解せず、説明することができない。
電気回路 評価項目2	直流回路の定量的な計算を理解し、的確に説明することができる。	直流回路の定量的な計算を理解し、説明することができる。	直流回路の定量的な計算を大まかに説明することができる。	直流回路の定量的な計算を理解せず、説明することができない。
プログラミング 評価項目1	何も参照しないで基本的なアルゴリズムのPADを作成できる。	基本的なアルゴリズムのPADを理解でき、これに修正を加えることでPADを作成できる。	基本的なアルゴリズムのPADを理解できる。	基本的なアルゴリズムのPADを理解できない。
プログラミング 評価項目2	変数、代入、反復構造、分岐構造を理解し、正しいプログラムを作成できる。	変数、代入、反復構造、分岐構造を理解し、PADを参照しながら正しいプログラムを作成できる。	変数、代入、反復構造、分岐構造を理解しているが、PADを参照しても正しいプログラムを作成できない。	変数、代入、反復構造、分岐構造を理解せず、PADを参照しても正しいプログラムを作成できない。
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	一般・専門の別: 専門 学習の分野: 電気・電子, 情報・制御 必修・必履修・履修選択・選択の別: 必修 基礎となる学問分野: 電気電子工学, 情報学/ソフトウェア 学科学習目標との関連: 本科目は総合理工学科の学習目標「③基盤となる専門性の深化」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化, A-2: 「電気・電子」, 「情報・制御」に関する専門技術分野の知識を修得し、説明できること」である。 授業の概要: 電子・情報・通信分野に必要な電気回路とプログラミングの基礎を学習する。 電気回路では、1年生が電気電子工学に親しむことができるように、電気電子工学の最も基本と考えられる直流回路について学習する。 プログラミングでは、コンピュータに与える計算手順(アルゴリズム)と、これに基づいたC言語によるプログラミングの基礎を学習する。			
授業の進め方・方法	授業の方法: 電気回路は、板書を中心に授業を進めていく。理解を深めるために、適宜演習を解かせながら授業を進めていく。また、状況に応じてレポート・課題を与える。 プログラミングは、板書によるアルゴリズムについての講義と、C言語のプログラミングの演習を組み合わせで行う。 成績評価方法: 電気回路の評価(50%) (2回の定期試験の結果を同等に評価する(25%)), 演習およびレポートを評価する(25%)。試験には、教科書・ノートの持込を許可しない。 プログラミングの評価(50%) (理解度による評価(2回の定期試験の平均)(40%)), 演習による評価(10%) 定期試験の結果が60点未満の場合、再試験により理解が確認できれば、点数を変更することがある。ただし、総合評価は60点を超えないものとする。			
注意点	履修上の注意: 学年の課程修了のため履修が必須である。本科目は半期で2時間連続の授業として実施するため、欠課数に注意すること。 履修のアドバイス: 電気回路は、直流回路の知識理解だけでなく、演習により回路解析を行う能力を養うことも重要であるため、受講者は自主的に課題に取り組むことも必要である。プログラミングは、履修にあたって事前に必要な専門知識は特にない。しかし、新しい概念や用語が多くでてくるため、予習、復習をして理解を深めて欲しい。 基礎科目: 中学で学んだ数学・理科 関連科目: 専門科目全般 受講上のアドバイス: 電気回路では、板書される内容を理解しながらノートに取ることを薦める。その日にノートを見返して理解不足の箇所を明確にし、次の授業で質問するように心掛けること。授業開始25分以内であれば遅刻とする。 プログラミングでは、タイピングの速度と正確さが重要なので、十分に練習すること。また、出欠確認時以降の入室は遅刻とする。遅刻は2回で1単位時間の欠課として扱う。			
授業計画				

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス, メモリと変数	
		2週	代入, PAD図の基礎	
		3週	C言語の基礎	
		4週	開発環境の説明, プログラミング演習[printf]	
		5週	PADによる反復構造, プログラミング演習[while]	
		6週	プログラミング演習[while]	
		7週	プログラミング演習[for]	
		8週	(前期中間試験)	
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解答解説	
		10週	一次元配列の基礎, プログラミング演習[一次元配列]	
		11週	PADによる分岐構造, プログラミング演習[if, scanf]	
		12週	条件記述 (&, , !), 演習[条件記述]	
		13週	プログラミング演習[条件記述]	
		14週	PADによる反復構造と分岐構造の組み合わせ, プログラミング演習[総合]	
		15週	(前期末試験)	
		16週	前期末試験の返却と解答解説	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	
		2週	電気回路の電圧・電流	
		3週	オームの法則	
		4週	抵抗の直列接続	
		5週	抵抗の並列接続	
		6週	分流回路	
		7週	分圧回路	
		8週	(後期中間試験)	
	4thQ	9週	前期中間試験の返却と解説, キルヒホッフの法則	
		10週	キルヒホッフの法則 (1)	
		11週	キルヒホッフの法則 (2)	
		12週	キルヒホッフの法則 (3)	
		13週	ホイートストーンブリッジ, 電池の接続法	
		14週	消費電力	
		15週	(後期末試験)	
		16週	後期末試験の返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	課題	その他	合計
総合評価割合	65	0	0	0	35	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	65	0	0	0	35	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報リテラシー
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: ネットワーク社会における情報の活用と技術 (実教出版)				
担当教員	寺元 貴幸, 森木 登, 大西 淳, 竹谷 尚				
到達目標					
学習目的: 情報を活用する時の考え方や具体的な処理の方法について学習する。またICTを活用した学習がスムーズに行える技術を習得する。					
到達目標 1. 情報の概念および情報の活用と発信の基礎について理解している。 2. 情報の管理とセキュリティの基礎について理解している。 3. コンピュータとネットワークの仕組みの基礎について理解している。 4. 情報社会のもたらす影響と課題について理解している。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	情報の概念を他人に説明できるレベルで理解し、情報の活用と発信を自在に行うことができる。	情報の概念を十分理解し、情報の活用と発信を行うことができる。	情報の概念をある程度理解しており、情報の活用と発信の基礎は行うことができる。	情報の概念を理解できていない。また情報の活用と発信を行うことができない。	
評価項目2	情報の管理とセキュリティについて他人に説明できるレベルで理解している。	情報の管理とセキュリティについて十分理解している。	情報の管理とセキュリティについて基礎を理解している。	情報の管理とセキュリティについて理解していない。	
評価項目3	コンピュータとネットワークの仕組みについて他人に説明できるレベルで理解している。	コンピュータとネットワークの仕組みについて十分理解している。	コンピュータとネットワークの仕組みについて基礎を理解している。	コンピュータとネットワークの仕組みについて理解していない。	
評価項目4	情報社会のもたらす影響と課題について他人に説明できるレベルで理解している。	情報社会のもたらす影響と課題について十分理解している。			
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 専門 情報システム</p> <p>必修・履修・履修選択・選択の別: 必修</p> <p>基礎となる学問分野: 情報学/情報学基礎, 計算基礎</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は「③基盤となる専門性の深化」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育目標は「(C) 情報技術の修得」である。</p> <p>授業の概要: コンピュータを中心とする情報機器を活用して問題を解決するとき、最低限知っておくべき科学的・技術的な知識を理解する。また、インターネットの普及に見られるように、身近になってきた情報社会に個人としてどのように関わっていくべきか学習する。また、情報機器を正しく活用する技術を身につける。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: プレゼンテーションと演習を中心に授業を進める。情報機器を活用して問題を解決するときに必要な概念の全般をイメージできるように授業を進める。90分の内、前半を講義、後半をパソコン演習とする。また、理解が深まるよう演習やレポートや総合演習を課す。</p> <p>成績評価方法: 4回の定期試験の結果を同等に評価する(50%)。また演習状況(20%)、レポート課題または総合演習の発表(30%)で評価し、最終的な成績を出す。なお各定期試験の結果が60点未満の人には補習、再試験により理解が確認できれば、点数を変更することがある。ただし、変更した後の評価は60点を超えないものとする。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 学年の課程修了のためには履修(欠席時間数が所定授業時間数の3分の1以下)が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: 必要に応じてレポート課題を課すので、必ず提出すること。</p> <p>基礎科目: (中学校) 技術・家庭の「情報に関する技術」</p> <p>関連科目: 専門科目全般(全系2年)</p> <p>受講上のアドバイス: 近年のコンピュータ、ネットワーク、情報化に関連する技術は急速に発達している。技術の発展に遅れないためにも、コンピュータ・ネットワーク系の雑誌や新聞を読むことを薦める。 遅刻は授業時間半分までとし、遅刻2回で欠課1回として取り扱う。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	科目の位置づけ, 学習内容, 方法に関するガイダンス, 演習室利用の説明		
		2週	情報の概念〔情報の性質, 情報伝達の特徴〕, 演習: ログイン方法, パスワードの設定など, パソコン演習に必要な基礎の演習		

2ndQ	3週	情報の概念〔情報伝達の方法〕, 演習:ログイン方法の確認, パスワード変更, パソコン演習に必要な基礎の演習2			
	4週	情報収集の方法と整理方法〔情報の収集〕, 演習:インターネットアクセス, ブラウザの使い方			
	5週	情報収集の方法と整理方法〔整理〕, 演習:ファイルの取扱について演習			
	6週	情報の加工・表現〔表現手法〕, 情報加工に関して配慮すべき事項, Office365 (Word,PowerPoint)の演習			
	7週	情報の加工・表現〔加工の手段〕, 演習:BlackBoardの使い方演習			
	8週	中間テスト			
	9週	中間テストの答案を返却して解説, 演習:パソコン演習の復習			
	10週	情報の管理とセキュリティ I〔個人による情報セキュリティ対策①〕, 演習:Office365(電子メール)の演習①			
	11週	情報の管理とセキュリティ I〔個人による情報セキュリティ対策②〕, 演習:Office365(電子メール)の演習②			
	12週	情報の管理とセキュリティ II〔セキュリティ保護技術, 不正アクセス, 有害情報〕, 演習:Office365(OneNote)の演習①			
	13週	情報の管理とセキュリティ II〔ネチケット, マナー〕, 演習:Office365(OneNote)の演習②			
	14週	前期の復習と確認, 演習:前期の復習と確認			
	15週	前期末試験			
	16週	前期期末試験の返却と解答解説			
	後期	3rdQ	1週	問題解決の方法〔シミュレーション①〕, 演習:Office365(SharePoint)の演習①	
			2週	問題解決の方法〔シミュレーション②〕, 演習:Office365(SharePoint)の演習②	
3週			問題解決の方法〔シミュレーション②〕, 演習:Office365(SharePoint)の演習②の続き		
4週			コンピュータのしくみ〔CPU〕, 演習:Office365(サイト)の演習①		
5週			コンピュータのしくみ〔メモリ〕, 演習:Office365(サイト)の演習②		
6週			コンピュータのしくみ〔I/O〕, 演習:Office365(サイト)の演習③		
7週			コンピュータのしくみ〔BUS等〕, 演習:Office365(サイト)の演習④		
8週			中間テスト		
4thQ		9週	中間テストの答案を返却して解説, 演習:パソコン演習の復習		
		10週	情報通信ネットワーク〔階層構造〕, 演習:Office365を使った総合的な演習・発表準備①		
		11週	情報通信ネットワーク〔インターネットの構造〕, 演習:Office365を使った総合的な演習・発表準備②		
		12週	情報社会のもたらす影響と課題〔各種法律〕, 演習:Office365を使った総合的な発表①		
		13週	情報社会のもたらす影響と課題〔社会問題等〕, 演習:Office365を使った総合的な発表②		
		14週	後期の復習と確認, 演習:後期の復習と確認		
		15週	後期末試験		
		16週	後期末試験の答案返却と試験解説		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	演習態度	課題	その他	合計
総合評価割合	50	10	0	20	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	10	0	20	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合理工実験実習
科目基礎情報					
科目番号	0015		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	各系担当者の説明にしたがうこと				
担当教員	趙 菲菲				
到達目標					
1.工学・理学を学ぶ上で必要な基本的なスキル(基礎的な数学, 計測技術, プログラミング)について認識する。 2. 2学年進級時の希望系を明確にする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	工学・理学を学ぶ上で必要な基本的なスキル(基礎的な数学, 計測技術, プログラミング)について認識でき, 明確に説明できる	工学・理学を学ぶ上で必要な基本的なスキル(基礎的な数学, 計測技術, プログラミング)について認識でき, 説明できる	工学・理学を学ぶ上で必要な基本的なスキル(基礎的な数学, 計測技術, プログラミング)について認識できていない		
評価項目2	2学年進級時の希望系を明確に確定でき明確に説明できる	2学年進級時の希望系を確定でき説明できる	2学年進級時の希望系の確定に迷いがあり確定できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別・学習の分野: 専門・実験実習</p> <p>必修・必履修・履修選択・選択の別: 必修</p> <p>基礎となる学問分野: 数物系科学/(物理, 数学), 生物学/基礎生物学, 化学/(無機, 有機化学), 情報学/計算基盤/プログラミング, 工学/(電気電子工学, 機械工学)</p> <p>学習教育目標との関連: 本科目は「②確かな基礎科学の知識修得」, 「③基盤となる専門性の深化」, 「⑥課題探求・解決能力の育成」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化である」。</p> <p>授業の概要: 四半期単位で4系が担当する実験実習をそれぞれ受講する。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 各系で初日に行われるガイダンスで, 授業の進め方が説明される。グループ分けや実施場所等が指示されるので注意して受講すること。</p> <p>成績評価方法: 各系における評価(100点満点)の均等平均を成績とする</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 本科目は必修科目のため1学年の課程修了には履修が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: 3クラス構成で受講する。系によってはさらに内部を2~4グループに分けて実施する場合もある。実施場所についても担当者の指示に従うこと。各系7週を担当。年度の初めには全体のガイダンスを行う。</p> <p>基礎科目: 中学校までの理科, 数学</p> <p>関連科目: 理科実験(先進2年), 機械システム工学実験実習I(機械2年), 電気電子システム工学実験I(電気電子2年), 情報システム工学実験I(情報2年)</p> <p>受講上のアドバイス: 各系担当者の説明にしたがうこと</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	先進: 全体ガイダンス		
		2週	先進: テーマ選定		
		3週	先進: 探求活動		
		4週	先進: 探求活動		
		5週	先進: 探求活動		
		6週	先進: 報告書作成		
		7週	先進: プレゼンテーション		
		8週	前期中間試験日		
	2ndQ	9週	機械: 全体ガイダンス		
		10週	機械: 旋盤〔操作の基本と基礎, 端面・側面削り, 穴あけ〕		
		11週	機械: 仕上げ〔けがき, 穴あけ, タップ立て〕		
		12週	機械: 仕上げ〔けがき, 切断, やすりかけ〕		
		13週	機械: 計測(ノギス, マイクロメータ)		
		14週	機械: ロボットアーム		
		15週	前期期末試験日		
		16週	機械: 報告書作成・提出		
後期	3rdQ	1週	電気電子: 全体ガイダンス		
		2週	電気電子: ①直流回路(1), 直流回路(2)		
		3週	電気電子: ②分流器・倍率器		
		4週	電気電子: ③テストの取扱い		

4thQ	5週	電気電子：④論理回路	
	6週	電気電子：⑤低周波増幅回路の製作	
	7週	電気電子：報告書作成	
	8週	後期中間試験日	
	9週	情報：全体ガイダンス	
	10週	情報：小型パソコンIchigoJamの製作	
	11週	情報：小型パソコンIchigoJamの製作	
	12週	情報：Basicプログラミング演習	
	13週	情報：Basicプログラミング演習	
	14週	情報：Basicプログラミング演習	
	15週	後期期末試験日	
	16週	情報：Basicプログラミング演習, レポート作成・提出	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	10	10	0	70	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	10	0	70	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『高等学校 国語総合』『高等学校 古典B』(明治書院), 『新訂総合国語便覧』(第一学習社), 『漢文への招待』(桐原書店), 『熟語を音訓から学ぶ-品詞別-頻出漢字マスター3000』(尚文出版), 参考書: 『国語辞典』『古語辞典』『漢和辞典』(どの出版社のものでも良い)				
担当教員	杉山 明,常本美代子 (一般)				
到達目標					
学習目的: 現代の日本語や日本文学, ひいては日本文化の基礎となっている古典文学(古文・漢文)を学び, 感性を磨く。 読み, 書き, 話し, 聞く力, 文章を理解して考える力の向上を目指すと共に, 日本語に関する常識的な知識を身につける。					
到達目標 1. 現代の様々な文章を読み, 論理的かつ多角的な理解力を養うと共に, 柔軟な発想や思考力を育む。 2. 日本語に関する知識を拡充する。 3. 古典を読み, その価値を知ると共に, 日本文化への理解を深める。 ◎効果的な説明方法や手段を用いて, コミュニケーションを図れる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	現代の様々な文章を読んで内容を理解し, それに対して自身の考えを述べる事ができる。	現代の様々な文章を読んで内容を理解し, それに対して自分なりに考えることができる。	現代の様々な文章を読み, その内容を理解することができる。	現代の様々な文章を読もうとしない。	
評価項目2	自発的に日本語に関する知識を増やし, それを活用することができる。	日本語に関する知識を増やし, それを活用する努力をすることができる。	日本語に関する知識を増やす努力をすることができる。	日本語に関する知識を増やすという気持ちがない。	
評価項目3	古文・漢文を読んで内容を味わうと共に, その価値を知り, 日本文化への理解を深めることができる。	古文・漢文を読んで内容を味わうと共に, その価値を知ることができる。	古文・漢文を読んで内容を味わうことができる。	古文・漢文を読もうとしない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別: 一般 学習の分野: 国語 必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修 基礎となる学問分野: 人文学/文学・言語学 学科学習目標との関連: 本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」「⑤グローバルな視点と社会性の養成」及び「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の育成」であるが, 付随的には日本文化への理解の深化が「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」にも関与する。 授業の概要: 『国語総合』と『古典』の教科書を使用し, 現代文, 古文, 漢文の授業を行う。				
授業の進め方・方法	授業の方法: ・『国語総合』と『古典』の教科書を用い, 現代文, 古文, 漢文の授業を行う。 ・毎週, 漢字小テストを実施し, 適宜, 課題提出物を課す。 成績評価方法: ・成績は, 定期試験(80%) + 漢字小テスト(10%) + 課題提出物(10%)の合計から評価する。 ・定期試験は, 計4回実施し, その評価割合は同等とする。再試験は, 原則として実施しない。 ・漢字小テストは, 毎週授業時に行い, その平均点を成績に算入する。再テストは, 原則として実施しない。 ・課題提出物は, 長期休暇中や単元終了時等に課す。詳細はその都度指示する。				
注意点	履修上の注意: 本科目は, 2学年の課程修了のために履修(欠席時間数が所定授業時間数の3分の1以下)が必須の科目である。 履修のアドバイス: 次回の授業に向け, 作品に目を通すと共に, 音読練習を行い, 読めない箇所がないか確認すること。毎週漢字小テストを行うので, 必ず勉強して受験すること。また, 日頃から本や新聞を読んだり, 文章を書いたりし, 自身の日本語力を向上させるよう努めること。 基礎科目: 国語Ⅰ(1年) 関連科目: 国語Ⅲ(3年), 国語Ⅳ(4), 日本文化論(4), 異文化社会論(4) 受講上のアドバイス: ・授業開始時刻に遅れた場合, 20分までは遅刻, それ以降は欠課として扱う。 ・欠課する(した)場合は, 欠課届あるいは公認欠課届を提出すること。漢字小テストは, 欠課の届け出がなかった場合, 当該のテストが0点となる。 ・積極的に授業に参加することももちろんだが, 日頃から様々な文章に触れ, 読む力や考える力を養うこと。 ・こまめに辞書を引き, 語彙を増やす努力をすること。なお, 授業中に辞書を引く場合, 携帯電話やスマートフォンの辞書を使用することは認めない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	[現代文] 随想		
		3週	[現代文] 随想		
		4週	[古文] 説話		
		5週	[古文] 説話		

		6週	[漢文] 故事・逸話		
		7週	[漢文] 故事・逸話		
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	前期中間試験の答案返却と解説		
		10週	[現代文] 評論		
		11週	[現代文] 評論		
		12週	[古文] 随筆		
		13週	[古文] 随筆		
		14週	[漢文] 史話・史伝		
		15週	前期末試験		
		16週	前期末試験の答案返却と解説		
	後期	3rdQ	1週	[漢文] 史話・史伝	
			2週	[現代文] 小説	
			3週	[現代文] 小説	
			4週	[古文] 日記	
			5週	[古文] 日記	
6週			[漢文] 漢詩		
7週			[漢文] 漢詩		
8週			後期中間試験		
4thQ		9週	後期中間試験の答案返却と解説		
		10週	[現代文] 評論		
		11週	[現代文] 評論		
		12週	[古文] 物語		
		13週	[古文] 物語		
		14週	[漢文] 文・寓話		
		15週	学年末試験		
		16週	学年末試験の答案返却と解説		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	80	0	0	0	10	10	100
基礎的能力	80	0	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本史
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『新日本史A』(実教出版)				
担当教員	野崎かほる (一般)				
到達目標					
1. 近代日本の政治・外交の基本的な特色と変動の過程を理解する。 2. 近代日本資本主義の構造的な特色と変動の過程を理解する。 3. 近代日本社会の変動の過程を理解する。 4. 個別的なできごとの考察を通じて、普遍的・地球的な視野を獲得し、それにもとづいて主体的に生きるための判断力をつちかう。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	基本的な概念やできごとを知識としておさえられている。	歴史的概念やできごとについて、基本的な知識は習得できている。	歴史的概念やできごとについて、基本的な知識が習得できていない。		
評価項目2	歴史的事象の構造、できごとの因果関係や影響について理解できている。	歴史的事象の構造、できごとの因果関係や影響について大筋が理解できている。	歴史的事象の構造、できごとの因果関係や影響について理解できていない。		
評価項目3	獲得した知識理解の上にとって、自分独自の見解や新しい問題を示すことができる。	獲得した知識理解の上にとって、独自の見解や新しい問題を示すことができる。	知識理解が定着しておらず、独自の感想も問題関心も持てない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方・方法					
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	●シラバスによるガイダンス、日本近代の出発点 開国		
		2週	●日本の近代化 (1)		
		3週	●日本の近代化 (2)		
		4週	●極東諸国と日本 (1)		
		5週	●極東諸国と日本 (2)		
		6週	●日露戦争と日本 (1)		
		7週	●日露戦争と日本 (2)		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	●経済と社会のしくみの特色 (1)		
		10週	●経済と社会のしくみの特色 (2)		
		11週	●帝国と植民地 (1)		
		12週	●帝国と植民地 (2)		
		13週	●第一次世界大戦と日本 (1)		
		14週	●第一次世界大戦と日本 (2)		
		15週	(前期末試験)		
		16週	●前期末試験の返却と解答解説		
後期	3rdQ	1週	●二つの大戦の間の日本 (1)		
		2週	●二つの大戦の間の日本 (2)		
		3週	●二つの大戦の間の日本 (3)		
		4週	●二つの大戦の間の日本 (4)		
		5週	(後期中間試験)		
		6週	●日中戦争と日本 (1)		
		7週	●日中戦争と日本 (2)		
		8週	●アジア・太平洋戦争と日本 (1)		
	4thQ	9週	●アジア・太平洋戦争と日本 (2)		
		10週	●占領下の日本 (1)		
		11週	●占領下の日本 (2)		
		12週	近代日本を生きた人たち (1)		
		13週	近代日本を生きた人たち (2)		
		14週	近代日本を生きた人たち (3)		
		15週	(後期末試験)		
		16週	●後期末試験の返却と解答解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
基礎的能力	25	0	0	0	0	0	25
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10
専門的能力	15	0	0	0	0	0	15

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	政治経済
科目基礎情報					
科目番号	0003	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	「政治・経済」(検定教科書)				
担当教員	大田 肇				
到達目標					
学習目的: 「経済に関する基礎用語を理解する。日本経済の動向を自分なりに把握していくきっかけをつかむ。民主主義の価値と課題を、論理的に理解する」					
到達目標 1. 経済の変遷に関する事項が理解できる。 2. 政治の現状に関する事項が理解できる。 3. 国際社会の動向に関する事項が理解できる					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	経済の変遷を歴史・理論を踏まえて理解できる。	経済に関する歴史・理論を大まかに理解できる。	経済に関する歴史・理論の基礎を理解できる。	左記に達していない。	
評価項目2	政治の現状を歴史・理論を踏まえて理解できる。	政治に関する歴史・理論を大まかに理解できる。	政治に関する歴史・理論の基礎を理解できる。	左記に達していない。	
評価項目3	国際社会の動向を歴史・理論を踏まえて理解できる。	国際社会に関する歴史・理論を大まかに理解できる。	国際社会に関する歴史・理論の基礎を理解できる。	左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別・学習の分野: 「一般・人文・社会」</p> <p>必修・必履修・履修選択・選択の別: 「必修」</p> <p>基礎となる学問分野: 「法学/政治学/経済学」</p> <p>学科学習目標との関連: 「本科目は⑤ グローバルな視点と社会性の養成」に相当する科目である」</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 「本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」である」</p> <p>授業の概要: 「経済の授業の概要基本原理および民主主義社会のそれを理解する。また、現在の日本社会は戦後70年を過ぎ、戦後の日本社会を支えてきた基本的な仕組みが大きく変わろうとしている時期である。投げ捨てるべきものと守り発展させていくべきものとを峻別するセンスを養っていく」</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 課題を設定しその課題を解明していく中で、教科書も使いながら、必要となる基礎知識を習得しながら、結論に達していくという方法を可能な限り採用する。</p> <p>成績評価方法: 定期試験 4回 100点 = (前期中間100点 + 前期末100点 + 後期中間100点 + 後期末100点) / 4 再試は実施しない。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 「2学年課程修了のためにはこの科目の履修が必須である」</p> <p>履修のアドバイス: 多くの日本人が将来に不安を抱いている激動の日本社会、最後に頼りになるのは「私の頭脳」と「ピピとひらめく直感力」と「勇気」でしょう。その中の一つぐらいは鍛えて下さい」</p> <p>基礎科目: 世界史(1年)</p> <p>関連科目: 異文化社会論Ⅰ・Ⅱ(4年)、日本社会論(4年)</p> <p>受講上のアドバイス: 自分を知りたいければ、自分以外のものを勉強しなさい! 自分ばかり見ていると、自分のことはわからない。遅刻が多くなった場合は、その時点で、指示を出します。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス。経済を勉強する意味		
		2週	生産の担い手		
		3週	同上		
		4週	株式会社		
		5週	同上		
		6週	同上		
		7週	企業集団		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解答説明 戦後の日本経済		
		10週	戦後の日本経済		
		11週	国際通貨制度		
		12週	同上		
		13週	プラザ合意		

		14週	バブル経済, 金融危機	
		15週	(前期末試験)	
		16週	前期末試験の返却と解答解説	
後期	3rdQ	1週	政治を勉強する意味	
		2週	権力とは何か	
		3週	同上	
		4週	民主主義	
		5週	国民主権	
		6週	同上	
		7週	国際社会	
		8週	(後期中間試験)	
	4thQ	9週	後期中間試験の返却と解答説明 基本的人権	
		10週	基本的人権	
		11週	同上	
		12週	統治機構	
		13週	平和主義	
		14週	安全保障	
		15週	(後期末試験)	
		16週	後期末試験の返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	微分積分 I
科目基礎情報					
科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	3		
教科書/教材	教科書: 齋藤 他著 新 微分積分 I (大日本図書)				
担当教員	横谷 正明, 吉田 英治				
到達目標					
学習目的: 微分・積分の概念と取り扱いに習熟する。					
到達目標 1. 関数の増減表をかいて, 極値を求め, グラフの概形をかくことができる。 2. 置換積分および部分積分を用いて, 不定積分・定積分を求めることができる。					
ループリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	合成関数を微分することができる。	標準レベルの関数の極限を求めることができる。積や商の公式を用いて, 標準的な関数を微分することができる。	基本的な関数の極限を求めることができる。基本的な関数を微分することができる。	多項式で表される関数の極限を求めることができる。多項式で表される関数を微分することができる。	
評価項目2	最大値・最小値を求めることができる。	接線の方程式を求めることができる。増減表を書いて極値を求め, グラフの概形をかくことができる。	増減表を正しく書くことができる。	微分法を応用することが不十分である。	
評価項目3	置換積分法や部分積分法を用いて, 不定積分や定積分を求めることができる。	標準レベルの関数について, 不定積分や定積分を求めることができる。	基本的な関数について, 不定積分や定積分を求めることができる。	多項式で表される関数を積分することができる。	
評価項目4	曲線の長さ, 立体の体積を求めることができる。	標準レベルの曲線で囲まれた図形の面積や曲線の長さを求めることができる。	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。	積分法を応用することが不十分である。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般 学習の分野: 自然科学系基礎・共通</p> <p>必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修</p> <p>基礎となる学問分野: 数物系科学/数学/基礎解析学</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は「②確かな基礎科学の知識修得」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化」である。</p> <p>授業の概要: 微分法は積分法とともに, 17世紀にニュートンとライブニッツにより発見された。前期では, いろいろな関数を微分することを学び, 接線と法線, 不定形の極限の求め方などを学ぶ。積分計算が微分法の逆計算であることが認識された後は, 多くの求積問題の計算が容易になった。後期では, 積分法について学び, 図形の面積, 曲線の長さ, 立体の体積などの求め方を学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 板書を中心に授業を進めていくが, 同時に演習時間を出来るだけ多く設け, 講義内容をより深く理解し, 更に自力で問題を解く力が身につくように配慮する。</p> <p>成績評価方法: 4回の定期試験(同等に評価し70%)とその他の試験, 演習, レポート, 授業への取り組み方など(30%)の合計で評価する。成績等によっては, 再試験を行う(レポート提出を課す)こともある。再試験は80点を上限として本試験と同様に評価する。試験には教科書・ノート等の持ち込みを許可しない。遅刻(授業開始後10分経過した後に来た者)の回数が多い場合は, 警告を行った後, 欠席扱いとすることもある。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 学年の課程修了のために履修(欠席時間数が所定授業時間数の3分の1以上)が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: 予習, 復習を必ず行い, また自力で演習問題を解くことによって講義内容をより深く理解していくことが大切である。</p> <p>基礎科目: 基礎数学(1年) 関連科目: 3年生以降の数学, 物理, 各専門学科の科目</p> <p>受講上のアドバイス: 講義内容をよく理解し, 自分で問題を解くことが重要である。自力で解法を見出すことを大切にしてほしい。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス, 関数とその性質, 関数の極限		
		2週	微分係数, 導関数		
		3週	導関数の性質		
		4週	三角関数の導関数, 指数関数の導関数		
		5週	合成関数の導関数, 対数関数の導関数		
		6週	逆三角関数とその導関数		
		7週	練習問題		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解説, 関数の連続		
		10週	接線と法線, 関数の増減		

		11週	極大と極小, 関数の最大・最小	
		12週	不定形の極限, 高次導関数	
		13週	曲線の凹凸, 媒介変数表示と微分法	
		14週	(速度と加速度はやらない), 平均値の定理, 練習問題	
		15週	(前期末試験) [範囲は第1週から第15週まで]	
		16週	前期末試験答案の返却と解説	
後期	3rdQ	1週	不定積分	
		2週	不定積分, 定積分の定義	
		3週	定積分の定義, 数列の基礎事項	
		4週	微分積分法の基本定理, 定積分の計算	
		5週	いろいろな不定積分の公式	
		6週	置換積分法	
		7週	部分積分法	
		8週	(後期中間試験)	
	4thQ	9週	後期中間試験の返却と解説, 置換積分法・部分積分法の応用	
		10週	置換積分法・部分積分法の応用, いろいろな関数の積分	
		11週	いろいろな関数の積分	
		12週	図形の面積, 曲線の長さ	
		13週	立体の体積, いろいろな応用 I	
		14週	いろいろな応用 II	
		15週	(学年末試験) [範囲は第1週から第30週まで]	
		16週	後期末試験答案の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	その他	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		70	30	100	
専門的能力		0	0	0	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎線形代数
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 井川 他著 新線形代数 (大日本図書) 問題集: 井川 他著 新線形代数 問題集 (大日本図書), 線形変換に関するプリント				
担当教員	有本 茂, 福田信幸 (一般)				
到達目標					
学習目的: 線形代数学の基本概念および理論を理解し, それらを応用できるようになり, この後, 学習する数学などの理解が円滑に行えるようになることを目的とする。					
到達目標: 1. 平面と空間のベクトルの演算が理解でき, 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。2. 逆行列の定義を理解し, 2次の正方行列の逆行列を求めることができ, さらに, そのかけ算を正則線形変換の逆変換と解釈できる。3. 行列式の定義および性質を理解し, 基本的な行列式の値を求めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	平面と空間のベクトルの演算が理解でき, 空間内の直線・平面・球の方程式に関する応用ができる。	平面と空間のベクトルの演算が理解でき, 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。	空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができない。		
評価項目2	逆行列の定義を理解し, 2次の正方行列の逆行列に関する応用ができ, 正則線形変換の逆変換との関係が理解できる。	逆行列の定義を理解し, 2次の正方行列の逆行列を求めることができ, 逆変換との関連を理解できる。	逆行列の定義を理解していない。2次の正方行列の逆行列を求めることができない。逆変換との関連を理解できない。		
評価項目3	行列式の定義および性質を理解し, 行列式に関する応用ができる。	行列式の定義および性質を理解し, 基本的な行列式の値を求めることができる。	行列式の定義および性質を理解していない。基本的な行列式の値を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	必履修 基礎となる学問分野: 数物系科学 / 数学 / 数学基礎 学科学習目標との関連: 本科目は一般科目学習目標「(1) 実践的技術と工学の基礎を学び, 深く専門の学芸・技術を身につける」に相当する科目である。総合理工学科学習教育目標② 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化」である。 授業の概要: 線形代数は自然科学だけでなく工学, 経済学等でも広く用いられている。この授業では, まず, 平面と空間のベクトルの基本的性質を学ぶ。次に行列や行列式を定義し, 連立1次方程式の解法に応用する。				
授業の進め方・方法	授業の方法: 学生の理解を確認しながら, 授業を進める。 成績評価方法: 4回の定期試験(同等に評価し70%)とレポートと小テストなど(30%)の合計で評価する。成績等によっては, 再試験を行う(レポート課題を課す)こともある。再試験は80点を上限として本試験と同様に評価する。試験には教科書・ノート等の持ち込みを許可しない。				
注意点	履修上の注意: 学年の課程修了のためには, 本科目の履修が必要である。 履修のアドバイス: 本科目は学年の課程修了のために履修(欠課時間数が所定授業時間数の1/3以下)が必須である。 基礎科目: 基礎数学Ⅰ(1年), 基礎数学Ⅱ(1年) 関連科目: 微分積分Ⅱ(3年), 線形数学(3), 応用数学Ⅰ(4), 応用数学Ⅱ(4), 数学技能検定Ⅰ・Ⅱ(全年), 物理Ⅰ・Ⅱ(1, 2), 各専門学科の科目 受講上のアドバイス: 遅刻の回数が多い場合は, 警告を行った後, 欠席扱いとすることもある。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス, 平面のベクトルの演算と成分		
		2週	ベクトルの内積, 平行と垂直		
		3週	図形への応用, 練習問題		
		4週	空間座標		
		5週	空間のベクトルの成分		
		6週	内積		
		7週	練習問題		
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験の返却と解説, 直線と平面の方程式		
		10週	球の方程式		
		11週	ベクトルの線形独立・線形従属		
		12週	練習問題		
		13週	行列の定義, 行列の和・差, 数との積		
		14週	行列の積, 転置行列		
		15週	前期末試験		
		16週	前期末試験の返却と解説		
後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス		
		2週	逆行列, 逆変換		
		3週	消去法		

4thQ	4週	逆行列と連立 1 次方程式	
	5週	練習問題	
	6週	行列式の定義 (1)	
	7週	行列式の定義 (2), 練習問題	
	8週	後期中間試験	
	9週	中間試験の返却と解説	
	10週	行列式の性質	
	11週	行列の積の行列式, 行列の積と合成変換	
	12週	行列式の展開	
	13週	行列式と逆行列	
	14週	連立 1 次方程式と行列式, 回転を表す線形変換	
	15週	後期末試験	
	16週	後期末試験の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	小テスト	レポート	合計
総合評価割合	70	0	0	0	10	20	100
基礎的能力	70	0	0	0	10	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0006	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	三浦他, 文部科学省検定教科書「物理基礎」, 「物理」(東京書籍)				
担当教員	岡本成二 (一般)				
到達目標					
学習目的: 物理学は自然科学や工学における最も基礎的な分野である。本科目では, 物体の衝突・分裂, 波動現象について学習し, その計算方法を修得する。					
到達目標 1. 運動量, 力積の概念および, 運動量の保存則を理解している。 2. 波動の基本的な性質を理解し, 回折, 干渉を説明できる。また, 光の反射角, 屈折角に関する計算ができ, 分散現象を理解している。 ※分野横断能力については該当しない。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	力積, 運動量の概念を計算に活用できる。	複合的な計算ができる。	基本的な計算ができる。	基本的な計算ができない。	
評価項目2	運動量保存則を物理量の計算に活用できる。	複合的な計算ができる。	基本的な計算ができる。	基本的な計算ができない。	
評価項目3	音の回折, 干渉現象の計算ができる。	波動の複合的な計算ができる。	波動の基本的な計算ができる。	波動の基本的な計算ができない。	
評価項目4	光の干渉現象の計算ができる。	光の反射角, 屈折角に関する複合的な計算ができる。	光の反射角, 屈折角に関する基本的な計算ができる。	光の基本的な計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般・理学系基礎・物理</p> <p>必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修</p> <p>基礎となる学問分野: 数物系科学 / 物理学 / 物理一般</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は学習教育目標「②確かな基礎科学の知識修得」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化, A-1: 工学に関する基礎知識として, 自然科学の幅広い分野の知識を修得し, 説明できること」である。</p> <p>授業の概要: 運動量と力積を学び, 運動量保存則を理解する。波動現象として, 波がもつ回折, 干渉などの一般的な性質や基本的な波の表現, 正弦波について学ぶ。音波については, うなりや共鳴現象, ドップラー効果を学習する。光については, 屈折の法則や全反射, 分散やスペクトルと光の色の関係, 光の散乱現象を自然現象や現代科学の応用などと関連させて学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 講義形式の授業を進め, 適宜, 演習と実験を行なう。理解を深めるために演示実験を要所で行う。演習では学生による解答の板書と解説を促す。</p> <p>成績評価方法: 4回の定期試験を60% (均等に重み付け), 平素の演習, 小テスト, 実験レポートなどを40%とする。成績不振者には補講と再試験を課して, 60点を上限に定期試験の成績を置換する。</p> <p>問題集: 「ニューグローバル物理基礎+物理」(東京書籍), レッツトライノート物理基礎熱・波・電磁気編, レッツトライノート物理VoⅠ, 2力学編, 熱・波編 実験書: 物理学習実験書(上)(下)(岡山県高等学校理科協議会)</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 課程修了のため履修が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: 毎週, 教科書や問題集の問題を解いて復習すること。また宿題レポートは期限までに必ず提出すること。</p> <p>基礎科目: 物理I(1年), 基礎数学(1), 基礎数学演習I(1), 微分積分I(2)</p> <p>関連科目: 力学I(3年), 力学II(3), 電磁気学概論(3), 熱力学概論(3), 専門科目全般</p> <p>受講上のアドバイス: 授業で扱う数式について, 計算してよく理解すること。授業中にメール等の操作をしている場合には退室してもらうことがある。 授業開始25分以内であれば遅刻とし, 遅刻3回で1欠課とする。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス, 波の性質(「物理基礎」)		
		2週	定常波, 反射(「物理基礎」)		
		3週	定常波, 反射(「物理基礎」)		
		4週	音と振動, 弦の固有振動(「物理基礎」)		
		5週	音と振動, 弦の固有振動(「物理基礎」)		
		6週	気柱の固有振動(「物理基礎」)		
		7週	学生実験(気柱共鳴による音速の測定)		
		8週	章末問題演習		
	2ndQ	9週	前期中間試験(上記内容に関する)		

後期		10週	前期中間試験の解説と返却、波の表し方（以下「物理J」）	
		11週	波の表し方（以下「物理J」）	
		12週	ホイヘンスの原理、反射の法則、屈折の法則	
		13週	波の回折・干渉波の性質	
		14週	章末問題演習	
		15週	前期末試験：中間試験以降の内容	
		16週	前期末試験の解説と返却	
	3rdQ	1週	後期ガイダンス、音の性質	
		2週	音の性質、ドップラー効果	
		3週	光の伝わり方、光の反射と屈折	
		4週	ヤングの実験、回折格子	
		5週	ヤングの実験、回折格子	
		6週	レンズと鏡、章末問題演習	
		7週	学生実験（レンズによる像）	
		8週	後期中間試験（上記内容に関する）	
		4thQ	9週	後期中間試験の解説と返却
10週	力積（以下「物理J」）			
11週	運動量			
12週	物体の衝突、運動量保存則、章末問題演習			
13週	物体の衝突、運動量保存則、章末問題演習			
14週	学生実験（運動量保存則）			
15週	後期末試験：後期中間試験以降の内容			
16週	後期末試験の返却と解答解説			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	30	10	100
基礎的能力	35	0	0	0	15	10	60
専門的能力	25	0	0	0	15	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	化学 I
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 文部科学省検定済教科書「化学基礎」(東京書籍) 参考書: ダイナミックワイド 図説化学(東京書籍)				
担当教員	廣木 一光, 守友 博紀				
到達目標					
1. 物質量 (mol) を用いて物質の量を表すことができる。 2. 物質の三態, 原子の構造や価電子, 結合について説明できる。 3. 酸と塩基の反応, および酸化還元反応について説明できる。 4. 反応熱について理解し, 熱化学方程式から反応熱を計算できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	物質の量を物質量 (mol) で表し, 量的計算に活用できる。	物質の量を物質量 (mol) で表し, 体積や質量との関係を説明できる。	物質の量を物質量 (mol) で表すことができない。		
評価項目2	物質の三態, 原子の構造や価電子, 結合について具体例を挙げて説明できる。	物質の三態, 原子の構造や価電子, 結合について説明できる。	物質の三態, 原子の構造や価電子, 結合について説明できない。		
評価項目3	酸と塩基の反応, および酸化還元反応について具体例を挙げて説明でき, 物質量との関係を理解している。	酸と塩基の反応, および酸化還元反応について具体例を挙げて説明できる。	酸と塩基の反応, および酸化還元反応について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	自然界に存在する様々な物質の構造や, 物質間で起きる様々な変化を理解するための基礎的素養を教授する。				
授業の進め方・方法	一週2単位時間を2時限連続で, 原則として各HRで行う。板書中心の講義であるが, 適宜化学実験を行い, 実験結果をまとめ, 考察したレポートの提出を義務付ける。さらに必要に応じて, 基礎的な問題に対するレポートや小テストを課す。				
注意点	※本科目は環境エネルギー人材育成関連科目である。 元素記号, 化学式, 量の単位など, 教員から指示された基礎事項は憶える。記憶に頼って済ませようとせず, きちんと理解して応用力をつけようという努力がまず必要である。再試験は行わない。チャンスはそう多くない事を知って欲しい。 レポートは提出期限を守り, けじめを身につけること。 遅刻の取扱については, その時限の1/2 (ただし化学実験は, 安全上の理由により開始10分後) を越えたとき, その時限を欠課とするので注意すること。また遅刻は累積5回で欠課1時限とカウントする。 なお講義への不参加も欠課とカウントする場合がある。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス, 物質と人間生活		
		2週	物質の成り立ちと周期律		
		3週	物質の成り立ちと周期律		
		4週	物質と化学式		
		5週	物質と化学式		
		6週	物質の量の表し方		
		7週	物質量の計算		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	試験返却と解説		
		10週	化学反応式		
		11週	化学反応式		
		12週	酸と塩基		
		13週	酸と塩基		
		14週	酸と塩基		
		15週	(前期末試験)		
		16週	試験返却と解説		
後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス, 酸化と還元		
		2週	酸化還元反応		
		3週	酸化還元反応		
		4週	酸化還元反応		
		5週	化学と電気の関わり		
		6週	化学と電気の関わり		
		7週	(後期中間試験)		
		8週	試験返却と解説		
	4thQ	9週	基礎化学実験①		
		10週	基礎化学実験①		
		11週	基礎化学実験②		
		12週	基礎化学実験②		

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0008	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	3		
教科書/教材	教科書: 高島英幸監修・鈴木寿一(ほか)著 NEW STREAM II (増進堂), 野村真理(ほか)著Listening Box 1 (啓林館) その他: 予習ノート (教科書専用), 音声CD, 英和辞典 (電子辞書もしくは冊子)				
担当教員	住田 光子,ランポー典子 (一般)				
到達目標					
学習目的: 4技能(聴き・読み・書き・話す)をバランスよく養成する。					
到達目標: 1: 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ, 自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。 2: 高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することができる。 3: 英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。 4: 本文の要旨を英語または日本語でまとめることができる。 5: 上記に資するように, 精読, 速読, 多読等のスキルを高める。 ◎: コミュニケーションツールとしての口述, 記述, 図表などの特徴をあげることができる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	自分の身近なことについて英語で相手に伝えることが十分できる。	自分の身近なことについて英語で相手に伝えることがおおむねできる。	自分の身近なことについて英語で相手に伝えることが最低限はできる。	自分の身近なことについて英語で相手に伝えることができない。	
評価項目2	文法事項や構文を習得し, 表現に十分利用できる。	文法事項や構文を習得し, 表現におおむね利用できる。	文法事項や構文を習得し, 表現に最低限は利用できる。	文法事項や構文を習得しておらず, 表現にも利用できない。	
評価項目3	英文を正しい区切りやイントネーションで流ちょうに音読することが十分できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで流ちょうに音読することがおおむねできる。	英文を正しい区切りやイントネーションで流ちょうに音読することが最低限はできる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができない。	
評価項目4	英語運用能力向上のために, 精読, 速読, 多読等のスキルを高めることにたいへん成功した。	英語運用能力向上のために, 精読, 速読, 多読等のスキルを高めることに成功した。	英語運用能力向上のために, 精読, 速読, 多読等のスキルを高めることにわりと成功した。	英語運用能力向上のために, 精読, 速読, 多読等のスキルを高めることができなかった。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別: 一般・英語 必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修 基礎となる学問分野: 英語学・英米 / 英語圏文学・言語学・音声学 学科学習目標との関連: 本科目は「④教養豊かな実践的人間力の養成」, 「⑤グローバルな視点と社会性の養成」, 「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の育成」であるが, 付随的には「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」に関与する。 授業の概要: 検定教科書の様々な分野の英文を用いて, 内容理解をおこなったうえで, 音読や簡単な作文といったアウトプット(話す・書く)活動を実施する。また, その基盤となるインプット(語彙・文法力)活動を実施する。				
授業の進め方・方法	(住田) 読解・音読のために, 英文の区切りを見つける練習をおこなう。リスニング, 読解による内容理解の後, 音読練習や要旨作成などの活動をおこなう。 (ランポー典子) 授業冒頭にリスニング・発音の訓練をおこなう。例文暗唱や文法項目を中心に, 英文を書く練習をする。 成績評価方法: 前期中間試験から後期中間試験までは, 定期試験の結果を平均して評価する(60%)。定期試験の結果に加え, 平素の小テスト・課題・授業ノートなど(40%)を総合して成績評価をおこなう。年度末の成績評価は, 後期末試験までに加え, 上記の方法で算出された結果を90%に換算し, GTECの結果(リーディング・リスニング)を10%加えて評価する。試験には教科書・ノートの持込みを許可しない。場合によっては再試験を実施する。				
注意点	履修上の注意: 本科目は学年の課程修了のために履修が必須である。 履修のアドバイス: 予習・復習・課題を指示するので必ず取り組むこと。GTECを必ず受験すること。 基礎科目: 英語I(1年) 英語表現I(1) 英語表現II(2) 関連科目: 英語III(3) 受講上のアドバイス: 積極的に授業に参加すること。講義ならびに音読や英作文の活動は, 運用能力向上のための基礎となる。そのため, 必ず, 教科書・予習ノート・英和辞書を持参し, 予習や課題を取り組んだうえで授業に臨むこと。後期中間試験中に実施されるGTECを必ず受験すること。英検などの資格・検定試験を積極的に受験することが望ましい。 遅刻について: 授業開始5分すぎでの入室は欠課扱いとする。				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	●ガイダンス(予習・復習など学習法の説明, 受講上の注意, 多読指導①)		
		2週	●Chapter 1 (New Stream II) / Lesson 1 (Listening Box I)		
		3週	●Chapter 1 / Lesson 2		
		4週	●Chapter 1 / Lesson 3		

後期		5週	•Chapter 2 / Lesson 4		
		6週	•Chapter 2 / Lesson 5		
		7週	•Chapter 2 / Review		
		8週	•前期中間試験		
	2ndQ	9週	•前期中間試験返却と解説, 多読指導② Chapter 3 / Lesson 6		
		10週	•Chapter 3 / Lesson 7		
		11週	•Chapter 3 / Lesson 8		
		12週	•Chapter 4 / Lesson 9		
		13週	•Chapter 4 / Lesson 10		
		14週	•Chapter 4 / Review		
		15週	前期末試験		
		16週	•前期末試験の返却と解説・夏休みの課題説明, 多読指導③		
	後期	3rdQ	1週	•夏休みの課題・後期ガイダンス	
			2週	•Chapter 5 / Lesson 11	
			3週	•Chapter 5 / Lesson 12	
			4週	•Chapter 5 / Lesson 13	
5週			•Chapter 5 / Lesson 14		
6週			•GTEC練習 / Lesson 15		
7週			•GTEC練習 / Review		
8週			•後期中間試験		
4thQ		9週	•後期中間試験返却と解説, 多読指導④ (冬休み宿題, 詳細は別途指示する)		
		10週	•Chapter 6 / Lesson 16		
		11週	•Chapter 6 / Lesson 17		
		12週	•Chapter 6 / Lesson 18		
		13週	•Chapter 6 / Lesson 19		
		14週	•復習 / Lesson 20 と Review		
		15週	後期末試験		
		16週	•後期末試験の返却と解説		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	課題	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	25	15	100
基礎的能力	50	0	0	0	25	15	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語表現Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: Atlantis English Expression II (有限会社CHEERS) 参考書: 辞書 (電子辞書可)				
担当教員	ランボー エリック				
到達目標					
<p>1.英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 2.標準的な発音を聴き、音を模倣し、つづりと音との関係と基本的な強勢を理解できる。 3.適切な文法を使って、GTEC程度の基本的なエッセーを書くことができる。 4.基本的な会話やエッセーを書くための語彙を理解し、使用することができる。 ◎コミュニケーションツールとしての口述、記述、図表などの特徴をあげることができる。</p>					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	英語でコミュニケーションを図ろうとする態度がよく身に付いている。	英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。	英語でコミュニケーションを図ろうとする態度がおおむね身に付いている。	英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いていない。	
評価項目2	標準的な発音を聴き、音を模倣し、つづりと音との関係と基本的な強勢をよく理解できる。	標準的な発音を聴き、音を模倣し、つづりと音との関係と基本的な強勢を理解できる。	標準的な発音を聴き、音を模倣し、つづりと音との関係と基本的な強勢をおおむね理解できる。	標準的な発音を聴き、音を模倣し、つづりと音との関係と基本的な強勢を理解できない。	
評価項目3	適切な文法を使って、GTEC程度の基本的なエッセーをうまく書くことができる。	適切な文法を使って、GTEC程度の基本的なエッセーを書くことができる。	適切な文法を使って、GTEC程度の基本的なエッセーをおおむね書くことができる。	適切な文法を使って、GTEC程度の基本的なエッセーを書くことができない。	
評価項目4	基本的な会話やエッセーを書くための語彙をよく理解し、かつ使用することができる。	基本的な会話やエッセーを書くための語彙を理解し、かつ使用することができる。	基本的な会話やエッセーを書くための語彙を理解し、かつ使用することがおおむねできる。	基本的な会話やエッセーを書くための語彙を理解し、かつ使用することができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別・学習の分野: 一般・外国語 必修・履修・履修選択・選択の別: 必修 基礎となる学問分野: 英語学・英米 / 英語圏文学・言語学・音声学 学科学習目標との関連: 本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」、「⑤グローバルな視点と社会性の養成」、「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成」であるが、付随的には「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」に関与する。 授業の概要: 検定教科書の様々な英文を通して、語彙・発音・文法を習得した後で、リスニングとスピーキングの活動を行う。さらに定期的に英語でエッセーを書く。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 4技能(聴き・読み・書き・話す)全てのスキルの向上を目指してアクティビティーを行う。 成績評価方法: 4回の定期試験の結果を同等に評価する 50% 小テスト、エッセー、その他の課題 50% 再試験はしない。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 本科目は学年の課程修了のために履修が必須である。 履修のアドバイス: ノートを準備して授業のノートを取り、頻りに授業の復習をすること。本授業では辞書は必須である。(可能であれば、電子辞書が好ましい。) 基礎科目: 英語I (1年) 英語表現I (1) 関連科目: 英語II (2年)・英語III (3)・英語IV (4)・コミュニケーション学I (4)・国際英語論I (4)・コミュニケーション学II (4)・国際英語論II・英語V (5) 受講上のアドバイス: 必ず宿題をしてから、授業に臨むこと。熱心に授業に参加し、宿題をきちんとやり続ければ大きく英語の力を伸ばすことができる。授業開始後の入室は遅刻とみなし、2回の遅刻で1単位時間の欠課とする。</p>				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期ガイダンスAtlantis, Lesson 1		
		2週	Atlantis, Lesson 1		
		3週	Atlantis, Lesson 2		
		4週	Atlantis, Lesson 2 Essay 1提出		
		5週	Atlantis, Lesson 3		
		6週	Atlantis, Lesson 3		
		7週	まとめと中間試験対策		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解説Atlantis, Lesson 4		
		10週	Atlantis, Lesson 4		
		11週	Atlantis, Lesson 5 Essay 2提出		
		12週	Atlantis, Lesson 5		
		13週	Atlantis, Lesson 6		
		14週	まとめと期末試験対策		

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健・体育Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 大修館書店編集部『図説現代高等保健体育』(大修館書店) 参考書: 高橋健夫ほか(編)『ステップアップ高校スポーツ』(大修館書店) その他, 授業に応じてプリントやビデオを使用する。				
担当教員	田村裕史 (一般), 内倉 康二				
到達目標					
学習目的: 各種スポーツを行うなかで, 個人的, 集団的運動技術を習得しながら, 様々な運動課題に対して自ら学び考え, 解決していく力を身につける。さらに, グループとしての活動を通して, 「他者の意見を聞くこと」, 「他者と協力すること」といった, 集団行動に必要な力を身につける。また, 保健においても体育同様には, 今日健康関する各種問題について理解を深めつつ, 自ら考え, 解決していく力を身につける。					
到達目標 1. 各種スポーツの技術・戦術を理解し, 実施できる。 2. 他者の意見を正しく理解し, 他者の意見に対する, 自らの意見を明確に表現できる。 ◎ 3. 周囲の状況と自らの立場を照らし合わせ, 自身の長所を活かしながら集団の中で行動ができる。 4. 課題の解決や目標達成のために, 自らの役割を認識し, 率先して行動したり, 他者と協調して行動したりすることができる。					
ループリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	各種スポーツの技術・戦術を理解し, さらに表現できる。	各種スポーツの技術・戦術について理解している。	各種スポーツの技術・戦術について5割程度理解している。	各種スポーツの技術・戦術についてまったく理解していない。	
評価項目2	他者の意見を理解し, それを踏まえて自らの意見を表現できる。	他者の意見をいつでも聞くことができる。自らの意見をいつでも表現できる。	他者の意見を聞こうとすることができる。自らの意見を表現しようとすることができる。	他者の意見を全く聞き入れない。自らの意見を全く表現できない。	
評価項目3	置かれた状況を理解し, その中で, 自らの長所を發揮しながら集団の中で行動できる。	集団の中で, どういった状況に置かれているのかを理解することができる。また, 集団の調和を乱すことなく行動できる。	集団の中で, どういった状況に置かれているのかを理解しようとする。	置かれた状況に関わらず, 自らの欲求を満たす行動を取り, 集団の調和を乱す。	
評価項目4	課題解決や目標達成のために, 何が必要であるかわかり, 他者と協調しながら, 自らすべきことを遂行することができる。	課題が何であるのかを認識することができる。また, その解決や目標の達成に向けて努力することができる。	課題を認識しようとし, 課題を解決する手段を考えることができる。	課題が何であるのかを認識することができていない。また, 目標の達成に向けて行動を伴わない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・保健体育 保健においては「現代社会における健康のあり方」を, 体育においては各種スポーツを通して, 基礎的な体力を保持・増進しながら, 運動の特性について理解を深めていく。				
授業の進め方・方法	授業の方法: 体育においては, 基礎的な技術を学んだ上で, ゲームを中心とした授業を実施する。なお, 天候等により内容を変更することもある。また, 保健の授業は板書・プリント等を用いた説明を中心に具体的事例を取り上げながら進めていく。 成績評価方法: 授業での小テスト (50%: 個人的及び集団的技術の理解・習得ができていないか), 課題解決能力の判定 (30%: 毎回授業に参加し, 自らの技術上の課題を認識し, 他者の意見を参考にしながら, 自らの能力向上に努めているか), 主体性及び協調性の判定 (20%: 授業において, 自ら率先して行動したり, 他者と協力したりできているか) を総合して評価する。なお, 遅刻や欠課は成績に反映される。				
注意点	履修上の注意: 学年の課程修了のためには履修 (欠席時間数が所定授業時間数の5分の1以下) ・修得が必要である。運動に適した服装で, 装飾品 (時計, ネックレス等) を一切身に付けていない状態で受講すること。 履修のアドバイス: 「保健・体育Ⅰ」(1年) で習得したことを活かしながら, より高度な運動技術を身に付けるようにする。 基礎・関連科目: 保健・体育Ⅰ (1年), 保健・体育Ⅲ (3), 体育 (4) 受講上のアドバイス: 授業開始時間から5分を超えて授業に参加した場合は「遅刻」, 20分を超えて授業に参加した場合は「欠課」扱いとする。さらに4回の遅刻で1回の欠課とみなす。実技系科目であるので, 毎回の授業に出席することが大切であるが, 「出席さえしておけばよい」「テストさえできればよい」という考えを持たないこと。毎回の授業を通して, 常に自分の能力を向上させようとする意欲と態度を持ちながら授業に取り組むことが大切である。服装や授業の準備・後片づけ, 審判や得点係などの仕事についても, スポーツにおいて重要なものであることを学び, 実践して欲しい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス		
		2週	スポーツテスト		
		3週	スポーツテスト		
		4週	ソフトボール		
		5週	ソフトボール		
		6週	ソフトボール		
		7週	ソフトボール		
		8週	ソフトボール		
	2ndQ	9週	ソフトボール		
			10週	ソフトボール	

		11週	ニュースポーツ (インディアカ)	
		12週	ニュースポーツ (インディアカ)	
		13週	ニュースポーツ (インディアカ)	
		14週	ニュースポーツ (インディアカ)	
		15週	ニュースポーツ (インディアカ)	
		16週		
後期	3rdQ	1週	サッカー	
		2週	サッカー	
		3週	サッカー	
		4週	サッカー	
		5週	サッカー	
		6週	ニュースポーツ (ユニホック・アルティメット)	
		7週	ニュースポーツ (ユニホック・アルティメット)	
		8週	ニュースポーツ (ユニホック・アルティメット)	
	4thQ	9週	ニュースポーツ (ユニホック・アルティメット)	
		10週	ニュースポーツ (ユニホック・アルティメット)	
		11週	陸上競技 (長距離走), 保健 (1時間/週)	
		12週	陸上競技 (長距離走), 保健 (1時間/週)	
		13週	陸上競技 (長距離走), 保健 (1時間/週)	
		14週	陸上競技 (長距離走), 保健 (1時間/週)	
		15週	陸上競技 (長距離走), 保健 (1時間/週)	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	0	0	0	20	30	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	20	30	50	100

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国際交流
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	教科書：特になし 参考書：特になし				
担当教員	小西 大二郎				
到達目標					
学習目的：国際交流を主体的に計画しそれを実施することにより，地域及び諸外国等の現状について体験的に考え，さらに今後一人の人間として社会的に生きるとは何かということについて深く学習することを目的とする。					
到達目標					
1. 国際社会の実情を理解し，社会性・国際性を身につける。 ◎. 他国・社会での生活を通して，そこでの経済，文化，政治，社会問題等を理解し，国際社会で主体的に生きる個人及び技術者としての姿勢・素養を培う。					
ループリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	交流活動の社会的背景や重要性を理解し，その詳細を説明できる。	交流活動の社会的背景や重要性を理解し，その基本事項を説明できる。	交流活動の社会的背景や重要性を理解し，その基本事項を概ね説明できる。	交流活動の社会的背景や重要性を理解し，その基本事項を説明できない。	
評価項目2	交流活動を積極的に展開し，その意義を理解し，詳細に説明できる。	交流活動を積極的に展開し，その意義を理解し，その基本事項を説明できる。	交流活動を積極的に展開し，その意義を理解し，その基本事項を概ね説明できる。	交流活動を積極的に展開し，その意義を理解し，基本事項を説明できない。	
評価項目3	公共心を持ち，他人や自分の独創性について詳細に表現することができる。	公共心を持ち，他人や自分の独創性について基本的に表現することができる。	公共心を持ち，他人や自分の独創性について概ね表現することができる。	公共心を持ち，他人や自分の独創性について表現することができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別：一般・融合科目 学習の分野：その他 必修・履修・必履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：英語 / 公民 学科学習目標との関連：本科目は「⑥グローバルな視点と社会性の養成」，「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育目標は「(B) 地球の視野に立った人間性の育成，B-2：地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し，説明できること」である。 授業の概要：国際交流活動に計画的に参加し，交流活動報告書を提出する。				
授業の進め方・方法	授業の方法：個々に計画書を作成し，それに従って活動する。具体的な交流活動内容は交流機関のプログラムに従う。活動後に報告書を作成，提出する。 成績評価方法：報告書等により活動への取り組み姿勢，理解度等を判定し100点満点で評価する。合格した者は担当教員に申し出るとともに，学年末試験の最終日までに教務委員会へ単位取得申請を行うこと。				
注意点	履修上の注意：この科目を履修しようとする年度の前年度の適切な時期までに担当教員を決定し，担当教員に交流の計画書を作成し，交流を実施することの了解をとらなければならない。その後，所定の期日までに交流願等必要書類を提出しなければならない。また，所定の期日までに選択科目履修願を提出すること。なお，上記の担当教員決定時期，教務係への提出時期等の詳細は掲示等で指示する。 履修のアドバイス：自ら積極的に取り組む必要がある。 基礎科目：国語，人文・社会の科目，英語・国際コミュニケーション推進プログラムの科目 関連科目：全系横断演習，キャリアマネジメント，シナジーゼミナール，英語・国際コミュニケーション推進プログラムの科目 受講上のアドバイス：交流活動は指定された機関において行うので，該当する機関であるかどうか，よく確認すること。また交流活動に必要な経費は，原則すべて自己負担である。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	●ガイダンス (研修の目的等に関すること)		
		2週	●ガイダンス (海外安全情報等に関すること)		
		3週	●書類作成，手続き等の説明		
		4週	●書類作成，手続き等の説明		
		5週	●交流活動 1日目 (8時間を上限として合計22時間以上)		
		6週	●交流活動 1日目		
		7週	●交流活動 1日目		
		8週	●交流活動 1日目		
	2ndQ	9週	●交流活動 1日目		
		10週	●交流活動 2日目		
		11週	●交流活動 2日目		

		12週	●交流活動 2日目	
		13週	●交流活動 2日目	
		14週	●交流活動 2日目	
		15週	●交流活動 2日目	
		16週		
後期	3rdQ	1週	●交流活動 3日目	
		2週	●交流活動 3日目	
		3週	●交流活動 3日目	
		4週	●交流活動 3日目	
		5週	●交流活動 3日目	
		6週	●交流活動 4日目	
		7週	●交流活動 4日目	
		8週	●交流活動 4日目	
	4thQ	9週	●交流活動 4日目	
		10週	●交流活動 4日目	
		11週	●交流活動 4日目	
		12週	●交流報告書の作成	
		13週	●交流報告書の作成	
		14週	●交流報告書の作成	
		15週	●交流報告書の作成	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	ポートフォリオ	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	40	0	0	0	0	0	40

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地域貢献
科目基礎情報					
科目番号	0012	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実技	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	特になし				
担当教員	小林 敏郎				
到達目標					
学習目的：地域社会への貢献活動を，主体的に計画しそれを実施することにより，地域の現状について体験的に考え，さらに今後一人の人間として社会的に生きるとは何かということについて深く学習することを目的とする。					
到達目標： 1. 地域社会の実情を理解し，社会性を身につける。 ◎ 地域への貢献活動を通して，そこでの経済，文化，政治，社会問題等を理解し，地域社会で主体的に生きる個人及び技術者としての姿勢・素養を培う。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	貢献活動の社会的背景や重要性を理解し，その詳細を説明できる。	貢献活動の社会的背景や重要性を理解し，その基本事項を説明できる。	貢献活動の社会的背景や重要性を理解し，その基本事項を概ね説明できる。	貢献活動の社会的背景や重要性を理解し，その基本事項を説明できない。	
評価項目2	貢献活動を積極的に展開し，その意義を理解し，詳細に説明できる。	貢献活動を積極的に展開し，その意義を理解し，その基本事項を説明できる。	貢献活動を積極的に展開し，その意義を理解し，その基本事項を概ね説明できる。	貢献活動を積極的に展開し，その意義を理解し，基本事項を説明できない。	
評価項目3	公共心を持ち，他人や自分の独創性について詳細に表現することができる。	公共心を持ち，他人や自分の独創性について基本的に表現することができる。	公共心を持ち，他人や自分の独創性について概ね表現することができる。	公共心を持ち，他人や自分の独創性について表現することができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別：一般・融合科目・その他</p> <p>必修・履修・履修選択・選択の別：選択</p> <p>基礎となる学問分野：国語・英語・公民</p> <p>学科学習目標との関連：本科目は「⑤グローバルな視点と社会性の養成」，「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育目標は「(B)地球の視野に立った人間性の育成，B-2：地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し，説明できること」である。</p> <p>授業の概要：地域の社会活動や国際交流活動に計画的に参加し，交流活動報告書を提出する。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法：個々に計画書を作成し，それに従って活動する。具体的な貢献活動内容は貢献機関のプログラムに従う。活動後に報告書を作成，提出する。</p> <p>成績評価方法：報告書により活動への貢献度，理解度等を判定し，100点満点で評価する。合格した者は担当教員に申し出るとともに，学年末試験の最終日までに教務委員会へ単位取得申請を行うこと。</p>				
注意点	<p>履修上の注意：この科目を履修しようとする年度の前年度の適切な時期までに担当教員を決定し，担当教員に貢献活動の計画書を提出し，貢献活動を実施することの了解をとらなければならない。その後，所定の期日までに貢献願等必要書類を提出しなければならない。また，所定の期日までに選択科目履修願を提出すること。なお，上記の担当教員決定時期，教務係への提出時期等の詳細は掲示等で指示する。</p> <p>履修のアドバイス：自ら積極的に取り組むことが必要である。</p> <p>基礎科目：国語，人文・社会の科目，英語・国際コミュニケーション推進プログラムの科目 関連科目：全系横断演習，キャリアマネジメント，シナジーゼミナール，医療福祉推進プログラム，地域イノベーション推進プログラムの科目</p> <p>受講上のアドバイス：交流活動は指定された機関において行うことで必要なので，該当する機関であるかどうか，よく確認すること。また交流活動に必要な経費は，すべて自己負担である。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	書類作成，手続き等の説明		
		3週	貢献活動 1日8時間を上限として合計22時間以上		
		4週	同上		
		5週	同上		
		6週	同上		
		7週	同上		
		8週	同上		
	2ndQ	9週	同上		
		10週	同上		
		11週	同上		
		12週	同上		
		13週	同上		

		14週	同上	
		15週	同上	
		16週		
後期	3rdQ	1週	貢献活動 1日8時間を上限として合計22時間以上	
		2週	同上	
		3週	同上	
		4週	同上	
		5週	同上	
		6週	同上	
		7週	同上	
		8週	同上	
	4thQ	9週	同上	
		10週	同上	
		11週	交流報告書の作成	
		12週	同上	
		13週	同上	
		14週	同上	
		15週	同上	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	報告書	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	60	0	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	40	0	0	40

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合理工総論 I
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材					
担当教員	松田 修				
到達目標					
<p>総合理工学の基礎である生物に関する知識を理解することで、工学現象の理解や問題解決のための基礎能力を修得する。</p> <p>1. 生物の共通性と多様性について理解している。</p> <p>2. DNAの性質について説明できる。</p> <p>3. 演習を通じて理解を深化させる。</p>					
ルーブリック					
	優	良不可	可	不可	
評価項目1	詳細については開講時に示す				
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>基礎となる学問分野：生物学／基礎生物学</p> <p>本科目は総合理工学科の学習目標「① 確かな基礎科学の知識修得」に相当する科目である。本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化, A-1: 工学に関する基礎知識として、自然科学の幅広い分野の知識を習得し、説明できること」である。</p> <p>機械、電気電子、電子制御、情報工学科から総合理工学科へ転学科する学生が、転学科後の専門科目の学習に支障を来さない学力を身につけることを目的とした科目である。具体的には、総合理工学科1年生の必修科目の中から生物に重点をおいて講義と演習を行う。</p>				
授業の進め方・方法	<p>長期休業期間などを利用して、集中講義で行う。課題レポート・演習を中心に、必要に応じて講義を行う。</p> <p>成績評価方法：演習、レポート（100%）</p>				
注意点	<p>機械、電気電子、電子制御、情報工学科から総合理工学科第2年次転学科学生を受講対象とする。長期休業期間などを利用して、集中講義で行う。</p> <p>生物は、総合理工学科の基礎科目で、転学科後の学習の基礎固めとなる教科である。これら教科の理解は転学科して学習を行うためには必修である。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、生物の多様性と共通性（教科書p.10-17）		
		2週	生物と遺伝子、DNAの構造（教科書p.44-47）		
		3週	DNAの抽出実験1		
		4週	ゲノムと遺伝情報（教科書p.48-53）		
		5週	ゲノムと遺伝情報（教科書p.48-53）		
		6週	遺伝情報とタンパク質の合成（教科書p.62-71）		
		7週	遺伝情報とタンパク質の合成（教科書p.62-71）		
		8週	中間課題の提出		
	2ndQ	9週	中間課題の返却と解説		
		10週	細胞分裂とDNAの複製（教科書p.54-61）		
		11週	細胞分裂とDNAの複製（教科書p.54-61）		
		12週	生命活動とエネルギー（教科書p.18-29）		
		13週	生命活動とエネルギー（教科書p.18-29）		
		14週	生命活動とエネルギー（教科書p.18-29）		
		15週	課題提出		
		16週			
後期	3rdQ	1週	体内環境の特徴（教科書p.82-85）		
		2週	心臓と血液循環（教科書p.86-91）		
		3週	体内環境を調節する器官（教科書p.92-97）		
		4週	自律神経による調節、内分泌系による調節（教科書p.98-110）		
		5週	自律神経による調節、内分泌系による調節（教科書p.98-110）		
		6週	免疫（教科書p.112-127）		
		7週	免疫（教科書p.112-127）		
		8週	中間課題の提出		
	4thQ	9週	中間課題の返却と解説		
		10週	植生の多様性と分布（教科書p.144-155）		
		11週	植生の多様性と分布（教科書p.144-155）		
		12週	気候とバイオーム（教科書p.156-169）		
		13週	気候とバイオーム（教科書p.156-169）		
		14週	生態系とその保全（教科書p.170-187）		
		15週	最終課題提出		

		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習・レポート	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気電子回路
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書:「電気基礎 上」(東京電機大学出版) 「電気電子回路基礎」(電気書院), 参考書:「ブレッドボード電子工作」(東京電機大学出版)				
担当教員	西尾 公裕,村上雄大 (電気電子),岸原充佳 (電気電子)				
到達目標					
学習目的: 電気電子回路に用いられる基本的な知識を修得する。また, 基礎的な回路の動作原理を理解し, 電気電子回路の設計能力を修得することを目的とする。					
到達目標 1. 直流および交流などの電気信号を理解し説明できる。 2. 電気電子回路に用いられる電子部品を理解し説明できる。 3. 基本的な電気回路の動作原理を理解し説明できる。 4. 基本的な電子回路の動作原理を理解し説明できる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	直流および交流の電気信号を理解し, 的確に説明することができる。	直流および交流の電気信号を理解し, 説明することができる。	直流および交流の電気信号を説明することができる。	直流および交流の電気信号を理解せず, 説明することができない。	
評価項目2	電気電子回路に用いられる電子部品を理解し, 的確に説明することができる。	電気電子回路に用いられる電子部品を理解し, 説明することができる。	電気電子回路に用いられる電子部品を説明することができる。	電気電子回路に用いられる電子部品を理解せず, 説明することができない。	
評価項目3	基本的な電気回路の動作原理を理解し, 的確に説明することができる。	基本的な電気回路の動作原理を理解し, 説明することができる。	基本的な電気回路の動作原理を説明することができる。	基本的な電気回路の動作原理を理解せず, 説明することができない。	
評価項目4	基本的な電子回路の動作原理を理解し, 的確に説明することができる。	基本的な電子回路の動作原理を理解し, 説明することができる。	基本的な電子回路の動作原理を説明することができる。	基本的な電子回路の動作原理を理解せず, 説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別: 専門 学習の分野: 電気・電子 必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修 基礎となる学問分野: 工学/電気電子工学/電子デバイス・電子機器 学科学習目標との関連: 本科目は総合理工学科の学習目標「③基盤となる専門性の深化」のための科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化, A-2: 専門技術分野の知識を修得し, 説明できること」である。 授業の概要: 多くのロボットや電化製品などは, 電気電子回路を用いることにより実現されている。本講義では, 電気電子回路に用いられる電気信号や電子部品について学習する。また, 電子部品を用いた基本回路などを扱い, 電気電子回路に関する基礎的な内容を学習する。				
授業の進め方・方法	授業の方法: 板書を中心に授業を進めていく。理解を深めるために, 適宜演習を解かせながら授業を進めていく。また, 状況に応じてレポート・課題を与える。 成績評価方法: 4回の定期試験の結果を同等に評価する(70%)。演習およびレポートを評価する(30%)。試験には, 教科書・ノートの持込を許可しない。成績不振者には再試験を実施する場合がある。				
注意点	履修上の注意: 学年の課程修了のために履修が必須である。 履修のアドバイス: 電気電子回路は回路理論の知識理解だけでなく, 演習により回路解析能力を養うことも重要であり, 受講者は自主的・積極的に課題に取り組むことも必要である。 基礎科目: 総合理工基礎(1年)など 関連科目: デジタル工学(3年), 電磁気学概論(3)など 受講上のアドバイス: 板書される内容を理解しながらノートに取ることを薦める。その日にノートを見返して理解不足の箇所を明確にし, 次の授業で質問するように心掛けること。授業内容で理解できない場合は, 教員に聞きにくること。授業開始25分以内であれば遅刻とする。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	電気信号 (直流と交流)		
		3週	電子部品(1)		
		4週	電子部品(2)		
		5週	電子部品(3)		
		6週	電気電子回路 交流の基礎(1)		
		7週	電気電子回路 交流の基礎(2)		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解答		
		10週	電気電子回路 交流の基礎(3)		
		11週	電気電子回路 交流の基礎(4)		

		12週	電気電子回路 交流の基礎(5)	
		13週	電気電子回路 交流の基礎(6)	
		14週	電気電子回路 交流の基礎(7)	
		15週	(前期末試験)	
		16週	前期末試験の返却と解答	
後期	3rdQ	1週	電気電子回路 基本回路(1)	
		2週	電気電子回路 基本回路(2)	
		3週	電気電子回路 基本回路(3)	
		4週	電気電子回路 基本回路(4)	
		5週	電気電子回路 基本回路(5)	
		6週	電気電子回路 基本回路(6)	
		7週	電気電子回路 基本回路(7)	
		8週	(後期中間試験)	
	4thQ	9週	後期中間試験の返却と解答	
		10週	電気電子回路 応用回路(1)	
		11週	電気電子回路 応用回路(2)	
		12週	電気電子回路 応用回路(3)	
		13週	電気電子回路 応用回路(4)	
		14週	電気電子回路 応用回路(5)	
		15週	(学年末試験)	
		16週	学年末試験の返却と解答	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	課題	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	CAD入門
科目基礎情報					
科目番号	0015	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	山口 大造,松本 良雄				
到達目標					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	(可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	CADシステムの役割と構成を説明できる。	CADシステムの概要を説明できる。	CADシステムの役割を説明できる。	左記に達していない。	
評価項目2	CADシステムの基本機能を理解し、利用できる。	CADシステムの基本機能を理解している。	CADシステムの最低限の機能を理解している。	左記に達していない。	
評価項目3	図面の役割と種類を理解できる。	図面の役割を理解している。	三角法を理解している。	左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	機械および電気・電子製図のツールとして広く利用されているCADの基本操作を学ぶ。機械のCADソフトは「SolidWorks」を使用する。				
授業の進め方・方法	総合情報センタ内演習室を利用し、板書とスライドを使用して授業を進める。CADシステムを理解するために演習を主とし、最後には簡単な図面が描けるように基本操作を繰り返す。				
注意点	学年の課程修了のためには履修(欠席時間数が所定授業時間数の3分の1以下)が必須である。機械および電気・電子製図の基礎となるCAD操作を行う。日頃からPCの基礎操作に慣れておく必要がある。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	・ガイダンス	授業全体の流れを把握する。 注意事項を理解する。	
		2週	・3次元コンピュータグラフィックスとは	3次元コンピュータグラフィックスを理解する。	
		3週	・3次元コンピュータグラフィックスの基礎	3次元コンピュータグラフィックスについて説明できる。	
		4週	・製図の基礎〔基礎的な図形のかき方〕	製図に関する専門用語・道具の使い方を理解できる。	
		5週	・形状把握と三面図の基礎〔三角法〕	第三角法について説明できる。	
		6週	・形状把握演習1	立体図形から投影図が書ける。	
		7週	・形状把握演習2	投影図の間違いを指摘できる。	
		8週	・形状把握演習3	未完成の図形を補って三面図を完成できる。	
	2ndQ	9週	・形状把握演習4	指示に従い、立体図形から投影図が書ける。	
		10週	・形状把握演習5	三面図から等角図を描くことができる。	
		11週	・CADの種類と特徴	CADの種類と特徴が説明できる(7-14)。	
		12週	・CADの基本操作1〔CADソフトの起動、ファイル保存、終了〕	CADソフトの起動、ファイル保存、終了を実行できる(15-30)。	
		13週	・CADの基本操作2〔スケッチ、寸法記入操作〕	スケッチ、寸法記入操作を実行できる(31-39)。	
		14週	・CADの基本操作3〔フィーチャー操作〕	フィーチャー操作を実行できる(40-47)。	
		15週	・CADの基本操作4〔フィレット操作〕	フィレット操作を実行できる(48-59)。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	・CADの基本操作5〔アセンブリ操作〕	アセンブリ操作を実行できる(60-73)。	
		2週	・簡単な機械要素のCAD演習1	部品の作成(31-39)。 新しく部品を作成できる。	
		3週	・簡単な機械要素のCAD演習2	部品の作成(40-59)。 スケッチの押し出し・モデルの表示操作・くり抜き形状追加ができる。	
		4週	・簡単な機械要素のCAD演習3	部品の作成(60-73)。 形状の複写・角を丸める・スケッチの完全定義ができる。	
		5週	・簡単な機械要素のCAD演習4	部品の作成(74-86)。 モデルの修正・スケッチを回転させてモデルを作ることができる。	
		6週	・簡単な機械要素のCAD演習5	部品の作成に関する検図ができる。	
		7週	・モデルの作成1	アセンブリの作成(87-104)	
		8週	・モデルの作成2	図面を作成する(105-119)。	
	4thQ	9週	・モデルの作成3	部品図を作成する(120-130)。	
		10週	・モデルの作成4	検図を行い、図面を完成させる。	
		11週	・電気・電子製図の基本操作〔CADソフトの起動、ファイル保存、終了〕	CADソフトの起動、ファイル保存、終了を実行できる。	
		12週	・簡単な電気回路のCAD演習1	演習課題の内容が理解できる。	
		13週	・簡単な電気回路のCAD演習2	演習課題を完成させる。	
		14週	・電気回路図の作成1	課題の内容が理解できる。	

		15週	・電気回路図の作成2		課題を完成させる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	課題	態度	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	60	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気基礎		
科目基礎情報							
科目番号	0016	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	2				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	「電気基礎上」東京電機大学出版						
担当教員	原田 寛治						
到達目標							
1. 電流と磁気の関係を理解する。 2. 静電現象を理解する。 3. 交流回路の基礎理解し、定量的な計算に慣れる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	電流と磁気関係を図と式を用いて説明できる。	電流と磁気関係を式を用いて説明できる。	電流と磁気関係を説明できない。				
評価項目2	静電現象を図と式を用いて説明できる。	静電現象を式を用いて説明できる。	静電現象を説明できない。				
評価項目3	交流回路の基礎を理解し、定量的な計算ができる。	交流回路の基礎を理解し計算ができる。	交流回路の計算ができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1年生で学習した総合理工基礎に引き続き、電気電子に関する基礎的な知識を修得させ、活用できる能力を育成することを目標とする。						
授業の進め方・方法	1週2単位時間で前期に開講する(板書を中心の講義)。理解が深まるように適宜演習問題をしながら進めていく。状況に応じてレポートも課す。						
注意点	課程修了のため履修が必須である。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	ガイダンス, 直流回路の復習				
		2週	磁界の強さ				
		3週	磁束密度				
		4週	電磁力				
		5週	静電誘導と誘電体, 電界の強さと電束密度				
		6週	静電容量とその回路(コンデンサの接続)				
		7週	交流と直流, 交流の波形, 周波数と波長, 正弦波交流の発生				
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	試験の返却と解説及び正弦波交流の実効値, 平均値, 正弦波のベクトル表示				
		10週	正弦波交流の基本回路				
		11週	交流直列回路の電圧・電流				
		12週	R-L並列回路の電圧・電流				
		13週	R-C, R-L-C並列回路の電圧・電流				
		14週	R-C, R-L-C並列回路の電圧・電流				
		15週	交流の電力				
		16週	試験の返却と解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	20	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	20	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	制御基礎
科目基礎情報					
科目番号	0017		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	大浜庄司「なるほどナットク!シーケンス制御が分かる本」(オーム社)				
担当教員	前原 健二				
到達目標					
学習目的: シーケンス制御の理論およびシーケンス回路図, 具体的な制御回路の組み方などを修得し, 工学応用への基礎能力を養う。					
到達目標: 1. 制御全般の概要が分かる。 2. 制御の構成や使用器具, シーケンス図の書き方などが分かる。 3. 論理を学び, リレーシーケンスにより各種の基本的な制御回路が実現できる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	各種の用語を理解し, 制御を正しく説明できる。	基本的な用語を理解し, 制御の基本を正しく説明できる。	基本的な用語を大体理解し, 大まかに制御を説明できる。	基本的な用語が分からず, 制御を説明できない。	
評価項目2	制御の構成や各種の使用器具を理解し, 適切なシーケンス図が描ける。	制御の構成や使用器具を理解し, 軽微な間違いを除きシーケンス図が描ける。	制御の構成や使用器具をほぼ理解し, シーケンス図の基本が描ける。	制御の構成や使用器具が分からず, シーケンス図が描けない。	
評価項目3	論理とリレーシーケンスの関係を理解し, 各種の制御回路を正しく実現できる。	論理とリレーシーケンスの関係を理解し, 基本的な制御回路を正しく実現できる。	論理とリレーシーケンスの関係をほぼ理解し, 基本的な制御回路を大体実現できる。	論理とリレーシーケンスの関係が分からず, 習った制御回路が実現できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 専門 学習の分野: 情報・制御</p> <p>必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修</p> <p>基礎となる学問分野: 工学/電気電子工学/制御・システム工学</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は総合理工科学習教育目標「③基盤となる専門性の深化」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A)技術に関する基礎知識の深化, A-2:「電気・電子」, 「情報・制御」に関する専門技術分野の知識を修得し, 説明できること」である。</p> <p>授業の概要: Factory Automation技術の中心的技術の一つであるシーケンス制御の基本的事項全般を解説するとともに, 有接点リレーシーケンスの基本的な考え方や回路の組み方を講義する。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 1週2単位時間(90分)で前期に開講する。シーケンス制御の基礎から具体回路まで, 重要項目を整理して板書することにより授業を進める。個々の回路説明は教科書記載例を見ながら行う。理解が深まるように, まとめの演習も行う。</p> <p>成績評価方法: 2回の定期試験の結果を同等に評価する(70%)。試験には教科書・ノートの持込みを許可しない。演習による評価(30%)。期末成績が60点未満の人には特別補習期間に再試験を行い, 試験点を再計算して60点まで成績を変更することがある。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 学年の課程修了のためには履修(欠席時間数が所定授業時間数の3分の1以下)が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: シーケンス制御は工業分野で広く適用されており, 内容が広範囲に渡る。毎回, 復習をして授業内容を確認・理解するとともに, 次回の授業に向け教科書に目を通すなど予習をおこなうこと。</p> <p>基礎科目: 総合理工基礎(1年), 総合理工実験実習(1) 関連科目: 電気機器I(2年)など</p> <p>受講上のアドバイス: 各時限の開始時刻に遅刻, 欠課を確認する。遅刻は10分までとし, 遅刻の回数が多い場合は, 警告を行った後, 欠課扱いとすることもある。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	講義の概要, 電気基礎知識, 身のまわりにあるシーケンス制御		
		2週	シーケンス制御の種類, 制御の用語, シーケンス制御機器		
		3週	制御に用いられる機器(スイッチ, リレー, 表示器具)		
		4週	制御に用いられる機器(表示器具, 半導体素子, 駆動機器)		
		5週	電気用図記号, シーケンス制御記号, シーケンス図の書き方		
		6週	回路例とシーケンス図		
		7週	2値信号, 動作表, 論理記号, 基本的論理回路とその動作		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解答解説, 制御回路(自己保持回路)		
		10週	基本制御回路(インターロック回路, 優先回路)		
		11週	基本的制御回路(優先回路, 限時回路)		

	12週	リレーシーケンス制御の応用例（早押し表示，他）	
	13週	リレーシーケンス制御の応用例（電動機の運転制御，他）	
	14週	まとめ	
	15週	（前期末試験）	
	16週	前期末試験の返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	演習・ポートフォリオ	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気電子計測 I
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 阿部武雄, 村山 実「電気・電子計測 (第3版)」(森北出版)				
担当教員	眞鍋 由雄				
到達目標					
学習目的: 電気電子計測の基礎を理解し, 計測に関する計算ができるようになることが本科目の目的である。					
到達目標: 1. 測定方法を分類でき, 精度と誤差, 有効数字を考慮できる。 2. S I 単位・計測標準などを理解する。 3. 指示計器の動作・使い方を説明できる。 4. 指示計器の内部抵抗を理解し, 分流器・分圧器の計算ができる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	最小二乗法の計算ができる。	測定方法を分類でき, 精度と誤差について説明できる。有効数字を考慮できる。	測定方法を分類できる。	測定方法を分類できない。精度と誤差, 有効数字を考慮できない。	
評価項目2	量子標準などの高度な計測標準を説明できる。	S I 単位について説明でき, 一般的な計測標準を説明できる。	S I 単位について説明できる。	S I 単位・計測標準を説明できない。	
評価項目3	直流計器のトルクが生じる仕組みを説明できる。複雑な分流器・分圧器の計算(直流)ができる。	指示計器の使い方を説明できる。トルクや指針の振れ角の計算ができる。指示計器の内部抵抗を説明し, 簡単な分流器・分圧器の計算(直流)ができる。	指示計器の使い方を説明できる。トルクや指針の振れ角の計算ができる。	指示計器の使い方を説明できない。トルクや指針の振れ角の計算ができない。指示計器の内部抵抗を説明できない。簡単な分流器・分圧器の計算(直流)ができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別・学習の分野: 専門: 電気・電子</p> <p>必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修</p> <p>基礎となる学問分野: 工学/工学基礎</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は総合理工学科の学習目標「③基盤となる専門性の深化」のための科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化, A-1: 工学に関する基礎知識として, 自然科学の幅広い分野の知識を修得し, 説明できること」であるが, 付随的には「A-2」にも関与する。</p> <p>授業の概要: 誤差, 数値の取り扱いなど計測の基本事項から入り, 電気電子計測の基本である指示計器の原理, 構造について学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 板書を中心に授業を行うが, 日常生活で経験する電気製品等との関連に注意しながら授業を進める。また, 理解が深まるよう演習やレポートを課す。基礎となる電気磁気学, 電気回路についても計測原理や応用面の説明を通じて理解を深められるよう配慮する。</p> <p>成績評価方法: 2回の定期試験の結果をそれぞれ同等に評価する(70%)。小テストの成績, レポートの成績, 演習で評価する(30%)。成績不振者には再試験を実施することがある。再試験を行う場合は再試験結果を上限60点として定期試験結果に入れる。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 課程修了のため履修が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: 扱う項目は, 電気・電子全般に関係し, 広範囲にわたっているため, 各分野の基礎をしっかりと身につけることが重要である。</p> <p>基礎科目: 総合理工基礎(1年) 関連科目: 電気回路 I (3年), 電気磁気学 I (3)</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス, 電気計測とは		
		2週	計測の基礎(精度と誤差, 測定値の処理)		
		3週	計測の基礎(精度と誤差, 測定値の処理)		
		4週	単位系と標準(S I 単位, 電気量の単位と標準)		
		5週	単位系と標準(S I 単位, 電気量の単位と標準)		
		6週	計器の基礎(各種指示計器, 電子計器, デジタル計器)		
		7週	前期中間試験		
		8週	前期中間試験の返却と解答解説		
	2ndQ	9週	計器の基礎(各種指示計器, 電子計器, デジタル計器)		

	10週	計器の基礎（各種指示計器，電子計器，デジタル計器）	
	11週	計器の基礎（各種指示計器，電子計器，デジタル計器）	
	12週	電気量の測定1（電圧・電流の測定）	
	13週	電気量の測定1（電圧・電流の測定）	
	14週	電気量の測定1（電圧・電流の測定）	
	15週	前期末試験	
	16週	前期末試験の返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気機器 I
科目基礎情報					
科目番号	0019	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	2		
開設期	後期	週時間数	4		
教科書/教材	教科書: 深尾正, 「電気機器」, (実教出版) 参考書: 仁田工吉他, 「大学課程電気機器 (I)」, (オーム社)				
担当教員	新任教員 (電気電子)				
到達目標					
学習目的: 電気基礎の知識を基に, 電気機器の原理・構造・基本特性を理解し, また等価回路を用いて電気特性を考える能力を修得する。					
【到達目標】 1. 直流機の原理と構造を説明できる。 2. 変圧器の原理, 構造, 特性を説明でき, その等価回路が理解できる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	直流機の原理と構造を図解しながら説明でき, 電気特性の基礎的な計算ができる。	直流機の原理と構造を理解し, 電気特性の基礎的な計算ができる。	直流機の原理と構造, 電気特性を理解している。	左記に達していない。	
評価項目2	変圧器の原理, 構造, 特性, 等価回路を, 図解しながら説明でき, 電気特性の基礎的な計算ができる。	変圧器の原理, 構造, 特性, 等価回路を理解し, 電気特性の基礎的な計算ができる。	変圧器の原理, 構造, 特性, 等価回路を理解している。	左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 専門・電気・電子</p> <p>必修・履修・履修選択・選択の別: 必修</p> <p>基礎となる学問分野: 工学/電気電子工学/電工学・電力変換・電気機器</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は総合理工学科学習教育目標「③基盤となる専門性の深化」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化」である。</p> <p>授業の概要: 歴史上最初の電気機器である直流機と, 広く世の中に普及している変圧器について, 原理・基礎理論・運転特性などを学習する。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 教科書を中心に授業を進め, 必要に応じて演習・課題を課す。本授業は, 後期に集中して開講する。</p> <p>成績評価方法: 定期試験70% (2回の定期試験の結果を同等に評価する。) 演習・課題評価30%</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 学年の課程修了のために履修 (欠席時間数が所定授業時間数の3分の1以下) が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: 基本原理は電気電子基礎 I, II (1, 2年)の教科書を活用すると理解しやすい。常に実物を想像しながら考え, 計算するよう心がけること。</p> <p>基礎科目: 総合理工基礎 (1年), 電気基礎 (2年)</p> <p>関連科目: 電気機器 II (3年)</p> <p>受講上のアドバイス: 予習をよくすることにより, 授業中は積極的に質問することを歓迎する。授業開始25分以内であれば遅刻とし, 遅刻3回で1欠課とする。電気主任技術者試験 (機械など) の受験に本科目は役立つ。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス1, 直流発電機〔原理〕		
		2週	直流発電機〔構造〕		
		3週	直流発電機〔理論〕		
		4週	直流発電機〔種類・特性〕		
		5週	直流電動機〔理論〕		
		6週	直流電動機〔特性〕		
		7週	直流電動機〔始動・速度制御〕		
		8週	(後期中間試験)		
	4thQ	9週	中間試験の答案返却と解答解説, 直流電動機〔定格〕		
		10週	変圧器〔理論〕		
		11週	変圧器〔構造〕		
		12週	変圧器〔等価回路〕		
		13週	変圧器〔特性・効率〕		
		14週	変圧器〔並列結線・三相結線〕		
		15週	(後期末試験)		
		16週	期末試験の答案返却と解答解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	課題	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合理工演習
科目基礎情報					
科目番号	0020		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「電気基礎上」東京電機大学出版				
担当教員	原田 寛治				
到達目標					
1. 電気の学習に必要な基礎的な数学を理解し、基本的な問題が解ける。 2. 直流回路の直並列回路において合成抵抗や分流の計算方法を説明できる。 3. 交流回路の直並列回路においてインピーダンスや分流の計算方法を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	基礎的な数学を用いて、合成抵抗と電圧や電流の計算方法を説明できる。		基礎的な数学を用いて、合成抵抗の計算方法を説明できる。		合成抵抗の計算ができない。
評価項目2	直流回路の直並列回路において合成抵抗や分流の計算方法を説明できる。		直流回路の直並列回路において合成抵抗の計算方法を説明できる。		合成抵抗の計算ができない。
評価項目3	交流回路の直並列回路においてインピーダンスや分流の計算方法を説明できる。		交流回路の直並列回路においてインピーダンスの計算方法を説明できる。		インピーダンスの計算ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年生で学習した総合理工基礎に引き続き、電気電子に関する基礎的な知識を修得させ、活用できる能力を育成することを目標とする。				
授業の進め方・方法	1週2単位時間で開講する(板書を中心の講義)。理解が深まるように適宜演習問題をしながら進めていく。状況に応じてレポートも課す。				
注意点	課程修了のため履修が必須である。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、数学の基礎事項の確認(2次曲線)		
		2週	数学の基礎事項の応用		
		3週	電圧と電流の復習(m, μ , K, M)		
		4週	直列, 並列, 直並列接続の復習		
		5週	キルヒホッフの法則の復習		
		6週	ホイートストンブリッジの復習		
		7週	電力と電力量の復習		
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	試験の返却と解説		
		10週	三角関数の性質(sin, cos, tan)の復習		
		11週	正弦波(sin波)のグラフ		
		12週	ベクトルの和		
		13週	ベクトルの差		
		14週	逆関数による角度の算出方法と二次方程式の解		
		15週	前期末試験の返却と解説		
		16週	静電気の復習		
後期	3rdQ	1週	静電気の復習		
		2週	容量性リアクタンス		
		3週	電流と磁気の復習		
		4週	誘導性リアクタンス		
		5週	複素数の四則演算(和, 差)		
		6週	複素数の四則演算(乗, 除)		
		7週	ベクトル表示と複素数表示		
		8週	後期中間試験		
	4thQ	9週	試験の返却と解説及び交流の複素数表示		
		10週	インピーダンスの複素数表示		
		11週	R-L直列回路の合成インピーダンス		
		12週	R-C, R-L-C直列回路の合成インピーダンス		
		13週	R-L並列回路の合成インピーダンス		
		14週	R-C, R-L-C並列回路の合成インピーダンス		
		15週	R-C, R-L-C並列回路の合成インピーダンス		
		16週	後期末試験の返却と解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	20	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	20	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気電子システム工学実験実習Ⅰ
科目基礎情報					
科目番号	0021	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 電気電子システム工学実験実習Ⅰテキスト (ガイダンスのときに配布する。)				
担当教員	西尾 公裕, 中村 重之, 桶 真一郎, 湊原 哲也				
到達目標					
学習目的: 各実験テーマに取り組むことによって, 電気の扱いに慣れ座学で学んだ電気の基本的な原理・法則を理解する。					
到達目標 電気電子に関する各種の計測, 試験法等についての技術を習得するとともに, 専門科目について学習した内容を実験を通して理解する。 ・ 実験装置・器具・情報機器等を利用し目的を達成する手法が理解できる。 ・ 実験を通じて工学の基礎に係わる知識が理解できる。 ・ 実験から得られたデータについて工学的に考察し, 説明できる。 ◎ 目標達成のために他者と協調・協働して行動できる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	実験装置・器具・情報機器等を利用し目的を達成する手法が大変よく理解できる。	実験装置・器具・情報機器等を利用し目的を達成する手法が理解できる。	実験装置・器具・情報機器等を利用し目的を達成する手法がほぼ理解できる。	実験装置・器具・情報機器等を利用し目的を達成する手法が理解できない。	
評価項目2	実験を通じて工学の基礎に係わる知識が確実に理解できる。	実験を通じて工学の基礎に係わる知識が理解できる。	実験を通じて工学の基礎に係わる知識がほぼ理解できる。	実験を通じて工学の基礎に係わる知識が理解できない。	
評価項目3	実験から得られたデータについて工学的に適切に考察し, 説明できる。	実験から得られたデータについて工学的に考察し, 説明できる。	実験から得られたデータについて工学的に考察し, ほぼ説明できる。	実験から得られたデータについて工学的に考察し, 説明できない。	
評価項目4	目標達成のために積極的に他者と協調・協働して行動できる。	目標達成のために他者と協調・協働して行動できる。	目標達成のために他者と協調・協働して大体行動できる。	目標達成のために他者と協調・協働して行動できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 専門 学習の分野: 実験・実習</p> <p>必修・履修・履修選択・選択の別: 必修</p> <p>基礎となる学問分野: 工学/電気電子工学</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は「③基盤となる専門性の深化」「⑥課題探求・解決能力の育成」をさらに押し進めるための科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化である」。</p> <p>授業の概要: 1年生で学んだ電気電子系科目の基礎的内容を, 配線実習や基本的な実験を通して実際に体験しながら理解を深めるとともに, 電気工具や実験機器の取り扱いに慣れる。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 前期は2グループに分かれて実験を行う。後期は3グループに分かれて実験を行う。実験結果を整理し検討・考察を行い, データシートまたは報告書にまとめ, 担当教員に提出する。</p> <p>成績評価方法: 実験報告書 (70%), 出席状況および授業態度 (なお, 授業態度には, 服装および実習テキストなどの忘れ物も対象とする) (30%)</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 本科目は実技を主とする科目であるので, 学年の課程修了のためには履修 (欠席時間数が所定授業時間数の3分の1以下) ・修得が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: 実験室では実験実習ができる服装であること。特に「電気機械実験」では, 実習服と帽子を必ず着用すること。女子も長ズボン着用のこと。また運動靴など安全性の高い靴を履くこと。サンダル履きは不可。電卓を持参すること。</p> <p>基礎科目: 総合理工基礎 (1年), 総合理工実験実習 (1), 総合理工演習 (2), 電気機器Ⅰ (2), 制御基礎 (2) 関連科目: 電気電子システム工学実験実習Ⅱ (3年), 全系横断演習①② (3, 4), 電気電子システム工学実験 (4)</p> <p>受講上のアドバイス: 実験テキストを事前によく読んでおき, 内容や進め方を十分把握しておくこと。座学で学んでいない内容についても気を引き締めて取り組み, 実験で学ぶという心構えをしっかりと持つことが大切である。授業開始時刻に遅刻を確認する。各時限において15分以上の遅刻は欠課扱いとし, 遅刻部分のやってない実験について再実験を行う。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス〔実験内容の説明。班分け。テキストの配布など〕		
		2週	電子回路設計(1)		
		3週	電子回路設計(2)		
		4週	電子回路設計(3)		
		5週	電子回路設計(4)		

		6週	電子回路設計(5)		
		7週	電子回路設計(6)		
		8週	実験予備日, レポート指導		
	2ndQ	9週	LEGO Mindstormsを用いたPKロボットの製作(1)		
		10週	LEGO Mindstormsを用いたPKロボットの製作(2)		
		11週	LEGO Mindstormsを用いたPKロボットの製作(3)		
		12週	LEGO Mindstormsを用いたPKロボットの製作(4)		
		13週	LEGO Mindstormsを用いたPKロボットの製作(5)		
		14週	LEGO Mindstormsを用いたPKロボットの製作(6)		
		15週	実験予備日, レポート指導		
		16週	実験予備日, レポート指導		
	後期	3rdQ	1週	ガイダンス〔実験内容の説明。班分け。テキストの配布など〕	
			2週	キルヒホッフの法則(DC)	
			3週	電位降下法・置換法	
			4週	リレーシーケンスの実習	
			5週	オシロスコープの使用方	
6週			交流回路の測定(1)		
7週			交流回路の測定(2)		
8週			交流回路の測定(3)		
4thQ		9週	交流回路の測定(4)		
		10週	実験予備日, レポート指導		
		11週	屋内配線(1)		
		12週	屋内配線(2)		
		13週	屋内配線(3)		
		14週	屋内配線(4)		
		15週	実験予備日, レポート指導		
		16週	実験予備日, レポート指導		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	実験報告書	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	30	70	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	30	70	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合理工総論Ⅱ	
科目基礎情報					
科目番号	0022	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	2		
開設期	集中	週時間数			
教科書/教材					
担当教員	眞鍋 由雄				
到達目標					
学習目的: 総合理工学の基礎知識を理解することで, 工学現象の理解や問題解決のための基礎能力を修得する。					
到達目標: 1. 総合理工学の基本的な考え方を理解する。 2. 幅広い理工学分野についての基礎事項を理解する。 3. 演習を通じて理解を深化させる。					
ループリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	総合理工学を理解し, 的確に説明することができる。	総合理工学を理解し, 説明することができる。	総合理工学を理解し, 説明することができる。	総合理工学を理解せず, 説明することができない。	
評価項目2	幅広い理工学分野についての基礎事項を的確に説明することができる。	幅広い理工学分野についての基礎事項を説明することができる。	幅広い理工学分野についての基礎事項を概ね説明することができる。	幅広い理工学分野についての基礎事項を説明することができない。	
評価項目3	教科書にある基礎的な演習問題を解き, 正しく説明することができる。	教科書にある基礎的な演習問題を解き, 説明することができる。	教科書にある基礎的な演習問題を解き, 説明することができる。	教科書にある基礎的な演習問題を解き, 説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別・学習の分野: 専門・融合科目・その他</p> <p>必修・必履修・履修選択・選択の別: 選択</p> <p>基礎となる学問分野: 機械工学, 電気電子工学, 情報工学</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は総合理工学科の学習目標「③基盤となる専門性の深化」のための科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化, A-1: 工学に関する基礎知識として, 自然科学の幅広い分野の知識を修得し, 説明できること」である。</p> <p>授業の概要: 誤差, 数値の取り扱いなど計測の基本事項から入り, 電気電子計測の基本である指示計器の原理, 構造について学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 長期休業期間などを利用して, 集中講義で行う。課題レポート・演習を中心に, 必要に応じて講義を行う。</p> <p>成績評価方法: 演習, レポート (100%)。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 機械, 電気電子, 電子制御, 情報工学科から総合理工学科第2年次転学科学生を受講対象とする。長期休業期間などを利用して, 集中講義で行う。</p> <p>履修のアドバイス: 総合理工学科の基礎科目で, 転学科後の学習の基礎固めとなる教科である。これら教科の理解は転学科して学習を行うためには必修である。</p> <p>基礎科目: 関連科目:</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			

		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
	16週	最終課題の提出		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0